

2025年度 事業報告書

自 2025年 4月 1日

至 2026年 3月31日

公益財団法人北海道科学技術総合振興センター

(ノーステック財団)

2025 年度事業報告 目次

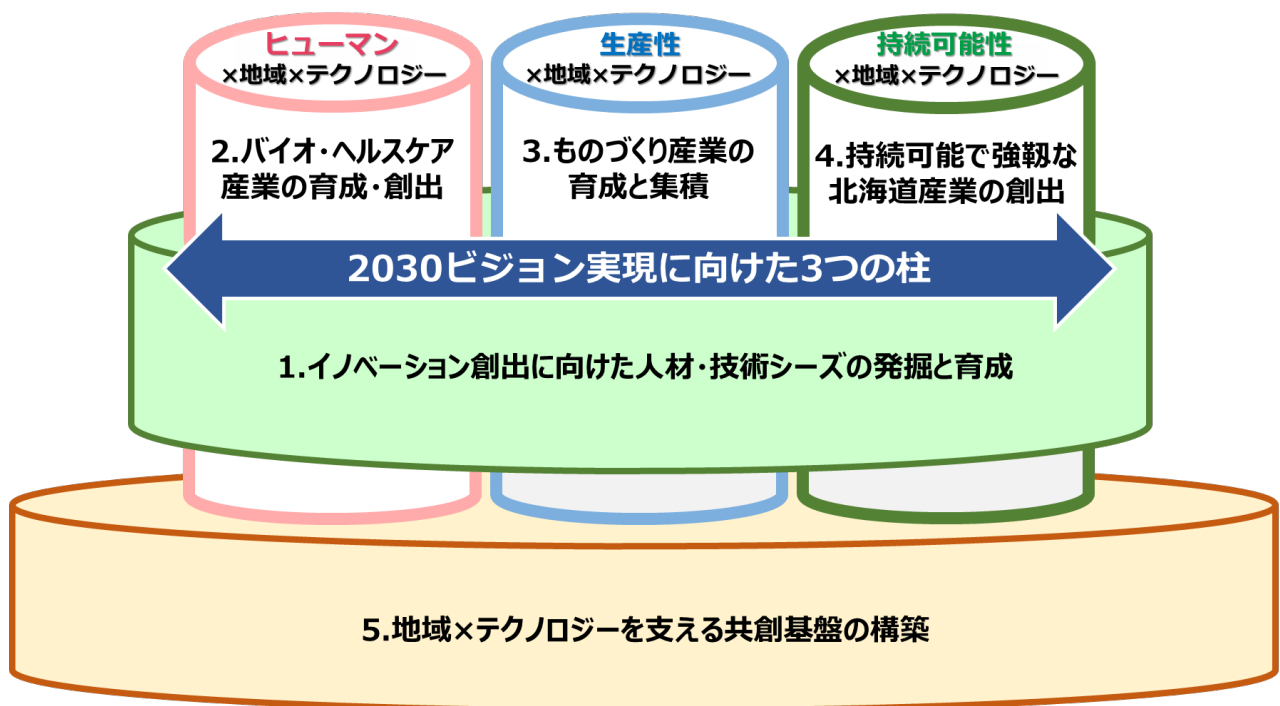
2025 年度 事業報告の概要	1
1. イノベーション創出に向けた人材・技術シーズの発掘と育成	2
＜研究開発助成事業＞	2
（1）若手研究人材育成事業（札幌市補助・自主）	2
（2）イノベーション創出研究支援事業（北海道補助・自主）	3
（3）札幌バイオシーズ事業化支援事業（札幌市補助）	4
（4）半導体／GX 関連技術シーズ育成事業（自主）	5
（5）次世代型研究開発事業（自主）	6
＜産学連携研究開発プロジェクトの創出・育成＞	6
（6）産学連携研究成果展開事業（自主）	6
（7）成長型中小企業等研究開発支援事業（経済産業省補助）	6
（8）スマート農業技術の開発・供給に関する事業（農研機構委託）	8
（9）研究開発支援に係る合同施策説明会等開催事業（経済産業局委託）	9
＜大学発スタートアップ創出に向けた支援＞	9
（10）スタートアップ・エコシステム共創プログラム事業（JST 委託）	9
2. バイオ・ヘルスケア産業の育成・創出	14
＜新事業創出に向けた研究開発支援＞	14
（1）先端研究産業応用検証事業（札幌市補助）	14
（2）医療連携開発支援事業（札幌市補助）	14
（3）研究開発支援補助等運営事業（札幌市補助）	15
＜新規参入企業・スタートアップの課題解決支援＞	15
（4）ヘルスケア関連製品開発促進事業（北海道委託）	15
（5）新規参入支援事業（札幌市補助）	17
（6）展示商談会等参加支援事業（札幌市補助）	19
（7）道産機能的食品の開発・販路拡大推進事業（北海道委託）	22
（8）バイオ・健康長寿産業創造事業（自主）	25
3. ものづくり産業の育成と集積	26
＜新技術・新製品開発、実用化・事業化に向けた支援＞	26
（1）ものづくり開発・グリーン成長分野推進事業（札幌市補助）	26
（2）ものづくり産業育成支援事業（自主）	26
（3）製造拠点省人化・省力化促進事業（自主）	27
（4）省力化投資促進支援体制強化事業（経済産業省委託）	27
（5）地域中小企業の人材確保支援等調査事業（経済産業省委託）	29
（6）地域企業の先端技術人材確保・育成等支援事業（北海道補助）	30
（7）ものづくり産業におけるグリーン・デジタル推進事業（北海道委託）	30

(8) ものづくり企業ロボット導入モデル事業（札幌市補助）	31
(9) グリーン・デジタル推進事業（自主）	32
＜クラスター形成に向けた地域の仕組みづくり＞	32
(10) 地域産業クラスターものづくり支援事業（自主）	32
(11) 食品産業クラスターの形成支援（自主）	33
(12) 小規模事業者に対する販路拡大支援事業（経産省補助）	34
4. 持続可能で強靱な北海道産業の創出	35
＜未来を見据えた産業創出＞	35
(1) 未来創造事業（LSTC 委託、NX 総研委託、北海道委託、自主）	35
＜基盤技術創出支援＞	38
(2) 幌延地圏環境研究事業（経済産業省補助、幌延町補助、共同研究）	38
5. 地域×テクノロジーを支える共創基盤の構築	42
＜地域課題を解決する産学官連携イノベーション創出プラットフォームの構築＞	42
(1) 産学融合拠点創出事業「チャレンジフィールド北海道」（経済産業省補助）	42
(2) 北大リサーチ&ビジネスパーク推進支援事業（北大 R&BP 推進協議会委託）	46
(3) 産学官連携推進事業（自主）	49
(4) コラボほっかいどう運営事業（自主）	49
6. 法人の運営体制の充実を図るための取組	49

2025 年度 事業報告の概要

2025 年度の北海道経済は、物価高騰や人手不足などの構造的課題を抱える一方で、次世代半導体、AI データセンター、再生可能エネルギー関連分野への大型投資や、「GX/AI 金融・資産運用特区」の推進など、産業構造転換と持続的成長に向けた新たな展開が進んだ一年となった。また、デジタル技術の進展や脱炭素化への対応など、社会・産業を取り巻く環境変化が加速する中、地域課題の解決と新たな産業創出を両立する取り組みの重要性が一層高まっている。

ノーステック財団では、「2030 ビジョン」のもと、地域における新たな価値創造と産業の持続的発展に向けた各種事業を推進している。2025 年度は、大学発スタートアップ創出支援、デジタルヘルス分野への新規参入支援、地域企業の生産性向上支援、食品産業クラスター形成支援、半導体関連人材育成に加え、産学連携の仕組みづくりである「チャレンジフィールド北海道」の自走化に向けた取り組みなどを柱として、総事業費 11.7 億円の各種事業を実施した。



2030 ビジョン 「アクションプランの 5 つの取組み」

1. イノベーション創出に向けた人材・技術シーズの発掘と育成

新技術・新産業創出に向け、これまで財団が実施してきた研究開発助成事業を起点として、大学等で生み出される研究成果（技術シーズ）の発掘・育成を行うとともに、地域企業との連携による産学連携プロジェクトや大学発スタートアップの創出を推進した。

＜研究開発助成事業＞

(1) 若手研究人材育成事業（札幌市補助、自主）

将来の北海道の科学技術力の強化及び新産業創出に向け、若手研究者の育成およびネットワーク形成の観点から、若手研究者の研究活動を支援した。

＜応募・採択結果＞

109 件の応募を受け、産学官の有識者からなる審査・専門委員の審査を経て、30 件の研究テーマを採択した。

事業名	補助金名	応募件数	採択件数	補助金額
若手研究人材・ ネットワーク育成事業 (補助率 10/10)	若手研究人材・ ネットワーク育成補助金 (タレント補助金)	109	30	14,324 千円

＜採択テーマ＞

No	研究テーマ名	研究者
1	悪性末梢神経鞘腫瘍の PVR を標的とした病態解析と治療法開発	札幌医科大学 医学部 訪問研究員 中橋 尚也
2	骨髄幹細胞の複数回投与と細胞外小胞を用いた脳梗塞治療法の開発	札幌医科大学 医学部 博士研究員（診療医） 横山 貴裕
3	自己免疫性疾患に対する疾患特異的 mRNA ワクチンの開発	北海道大学病院 皮膚科 助教 村松 憲
4	アセチルコリンを標的とした好酸球性副鼻腔炎に対する新規治療戦略	札幌東徳洲会病院 医学研究所 医員 / 研究員 林 隆介
5	血管内皮細胞の細胞老化による COVID-19 重症化機構の解明	北海道大学大学院 歯学研究院 助教 桜井 優弥
6	骨膜細胞由来マトリックスを用いた新規骨再生治療法の開発	北海道大学病院 歯周病科 医員 金本 佑生実
7	抗クリプトスポリジウム原虫薬の探索と薬剤標的分子の同定	帯広畜産大学 原虫病研究センター 特任助教 窪田 理恵
8	運動を活用した次世代型自己血漿療法の創出と関節修復効果の検証	北海道大学 大学院 保健科学研究院 助教 岡 優一郎
9	ニューロテンシン神経制御による睡眠障害治療戦略の基盤確立	北海道大学 大学院 医学研究院 講師 長沼 史登
10	AI 診療支援による小児集中治療室（PICU）革命	Heartkids' LIFELINK 主任研究員 酒井 渉
11	前十字靭帯再建術後の移植腱成熟と関節軟骨変性の関連	北海道大学 大学院 医学研究院 特任助教 佐藤 大
12	マルチスペクトルイメージングによる内視鏡診断システムの開発	北海道大学 大学院 工学研究院 助教 岡田 夏男
13	ルーチン cine MRI で実施可能な心不全診断法の開発	北海道大学 大学院 保健科学研究院 助教 村山 迪史
14	アモルファス合金を使った生体再生材料の開発	北海道大学 歯学部 助教 武藤 麻未
15	精神・発達障害者に対する個別 AI 運転支援モデルの構築と検証	北海道大学 大学院 保健科学研究院 助教 岡田 宏基

No	研究テーマ名	研究者
16	栄養状態と ISR 経路が周術期心筋障害に与える影響の検討	札幌医科大学 麻酔科学講座 助教 佐藤 智恵
17	脳卒中患者の詳細な機能自立度予測と要因分析による意思決定支援	北海道科学大学 保健医療学部 助教 松田 涼
18	ダイナミックストレッチングを応用した転倒予防プログラムの開発	北海道大学 環境健康科学研究教育センター 特任助教 大場 健裕
19	外来心臓リハビリの実施率向上に向けた普及阻害・促進要因の検証	札幌医科大学 保健医療学部 訪問研究員 角谷 尚哉
20	道産広葉樹ダケカンパの材質に及ぼす遺伝と環境の影響解析	森林研究・整備機構 森林総合研究所 研究員 菅井 徹人
21	色調変化を利用した切り花中の銀簡易分析法の開発	北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・地質研究所 研究主任 明本 靖広
22	道東近海のプラごみ付着生物の季節分布と水産資源への影響把握	水産研究・教育機構 水産資源研究所 研究員 宮園 健太郎
23	フルオロホルムの新規活性化法の開発とファインケミカル合成への応用	北海道大学 大学院 薬学研究院 助教 森崎 一宏
24	均一系触媒の設計指針を応用した新規水素化用固体触媒の創製	北海道大学 触媒科学研究所 助教 石川 浩也
25	ハイドロゲルの力学刺激応答を利用した無機材料合成技術の創出	北海道大学 大学院 先端生命科学研究院 特任助教 野口 真司
26	半導体混酸廃水からのフッ酸の革新的リサイクルプロセスの開発	北海道大学 大学院 工学研究院 助教 宮下 匠人
27	回転整流機構により高い段差乗り越え性能を有する球体車輪の開発	北海道立総合研究機構 工業試験場 研究職員 佐野 峻輔
28	衝撃応答解析で探る FRP 補強落石防護構造の高性能化	室蘭工業大学 大学院工学研究科 助教 瓦井 智貴
29	下水管老朽箇所の特定のための下水中土壌成分検出法の開発	北海道大学 大学院 工学研究院 助教 中屋 佑紀
30	スマートマイニングを応用した掘削面評価の自動化システムの実装	旭川工業高等専門学校 システム制御情報工学科 准教授 池田 啓

(2) イノベーション創出研究支援事業（北海道補助・自主）

北海道の科学技術の基盤強化を図る先導的・発展的研究及び新事業の創出に向けた研究開発シーズの育成を目的とした「イノベーション創出研究支援事業」を実施した。北海道内の産学連携を促進し、地域課題の解決や産業振興につながる研究成果の創出を支援した。

<応募・採択結果>

58 件の応募を受け、産学官の有識者からなる審査・専門委員の審査を経て、18 件の研究テーマを採択した。

事業名	補助金名	応募件数	採択件数	補助金額
イノベーション 創出研究支援事業 (補助率 10/10)	産学連携創出補助金	41	13	25,136 千円
	研究成果展開補助金	17	5	19,961 千円
	合計	58	18	45,097 千円

<採択テーマ>産学連携創出補助金

No	研究テーマ名	研究者
1	ポリウレタンリサイクル原料を活用する熱中症予防資材の開発	室蘭工業大学 大学院 工学研究科 准教授 馬渡 康輝
2	高機能ファインセラミックス素材を用いた 3D プリント材料の開発	(株)燃焼合成 研究員 中埜 夕希
3	ブロッコリーの選果作業支援へ向けた人工嗅覚センサの創製	北海道大学 電子科学研究所 教授 長島 一樹

No	研究テーマ名	研究者
4	デジタルツイン橋梁モデルによる構造性能評価技術の開発	北海道大学 大学院 工学研究院 教授 宮森 保紀
5	超小型全自動細胞培養ラボの開発と社会実装に向けた実証	室蘭工業大学 大学院 工学研究科 助教 鹿毛 あずさ
6	小麦クズ由来バイオ炭を活用したサステナブル農業技術基盤の開発	産業技術総合研究所 バイオものづくり研究センター 研究員 磯田 玲華
7	ビートパイラー自動制御システム実現のための要素技術開発	(有)瀬瀬鉄工 一般社員 山田 拓郎
8	香料用シソ植物への薬剤葉面処理によって精油量を増加させる技術開発	北見工業大学 地域未来デザイン工学科 准教授 陽川 憲
9	特殊系統サクラマスによるイクラ・魚肉ダブル収益型養殖の確立	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 准教授 萩原 聖士
10	分子標的・フォトンクス・AI を応用した新規う蝕診断治療法創出	北海道大学病院 むし歯科 助教 戸井田 侑
11	がん幹細胞を標的にした in vivo CAR-T 細胞開発	札幌医科大学 医学部 准教授 塚原 智英
12	生成 AI による X 線・CT 画像における脊髄神経自動抽出システム開発	北海道大学病院 整形外科 講師 山田 勝久
13	高精度・高精細認識を可能とする病理画像解析用人工知能の開発	旭川医科大学 先進医工学研究センター 講師 寺澤 武

<採択テーマ>研究成果展開補助金

No	研究テーマ名	研究者
1	北海道の水の信頼性を高める迅速病原細菌モニタリング技術の開発	北海道大学 大学院工学研究院 教授 佐藤 久
2	クラウド連携と情報基盤構築を志向した高機能除草ロボットの開発	北海道大学 大学院 工学研究院 准教授 江丸 貴紀
3	抗酸化物質によるワイン用ブドウ害虫の低環境負荷防除法の開発	産業技術総合研究所北海道センター バイオものづくり研究センター 研究チーム長 菊池 義智
4	SFTS ウイルスに対する完全ヒト抗体の AI による構造解析	(株)日本薬志 執行役員 三浦 りゅう
5	電気刺激で筋肉タイプを変換し筋肉を増強する医療機器の開発	旭川医科大学 先進医工学研究センター 准教授 井上 雄介

(3) 札幌バイオシーズ事業化支援事業（札幌市補助）

札幌市内の産業活性化を目的に、成長産業である健康・医療・バイオ分野の研究開発支援として、「札幌バイオシーズ事業化支援事業」を実施した。札幌市内研究者の優れた研究開発を支援することで、有望な技術シーズの将来的な実用化の促進を図った。

<応募・採択結果>

35 件の応募を受け、産学官の有識者からなる審査・専門委員の審査を経て、11 件の研究テーマを採択した。

事業名	補助金名	応募件数	採択件数	補助金額
札幌バイオシーズ事業化支援事業 (補助率 10/10)	事業化支援補助金（シーズ育成枠）	13	2	2,380 千円
	事業化支援補助金（産学連携枠）	22	9	26,873 千円
	合計	35	11	29,253 千円

<採択テーマ>事業化支援補助金（シーズ育成枠）※次年度に継続

No	研究テーマ名	研究者
1	吸収期間を制御する機能性ゲル状スキャフォールドの開発	北海道大学 大学院 獣医学研究院 准教授 中村 鉄平
2	海綿骨様構造を有するチタン素材の応用研究	北海道大学病院 整形外科 講師 清水 智弘

<採択テーマ>事業化支援補助金（産学連携枠）

No	研究テーマ名	研究者
1	精子形成可視化マウス由来スクリーニングアッセイ系の構築と検証	北海道大学 大学院 保健科学研究院 准教授 福永 久典
2	MSC-EV×Reha-EV 相乗再生機構の解明	札幌医科大学 医学部附属再生医療推進講座 特任講師 中崎 公仁
3	マイクロ・ナノ流体デバイスを用いた血行性転移診断法の開発	北海道大学 大学院 歯学研究院 教授 樋田 京子
4	皮膚への作用を期待したヒアルロン酸オリゴ糖の製剤開発	北海道大学 大学院 薬学研究院 講師 佐藤 夕紀
5	DDSで「安心して生食できるアニサキスフリーの魚」をつくる	北海道科学大学 薬学部 教授 丁野 純男
6	サケ鼻軟骨抽出物の新規機能性探索および応用展開	(株)リナイス 企画開発本部 課長 岡崎 寛大
7	牛ふん由来のバイオ液肥を利用した微細藻類培養とその循環利用技術	北海道大学 大学院 工学研究院 教授 石井 一英
8	難治性中耳炎の診断および活動性を評価する新しいキットの開発	北海道大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師 森田 真也
9	炎症性腸疾患の診断・鑑別に有用なAIソフトウェアの開発と実装化	旭川医科大学 内科学講座 助教 安藤 勝祥

(4) 半導体/GX 関連技術シーズ育成事業（自主）

北海道の重点産業分野である半導体及び GX 関連産業の活性化を目的として、「半導体/GX 関連技術シーズ育成事業」を実施した。本事業では、半導体研究や先端半導体技術を活用する道内研究者、ならびに脱炭素社会への貢献が期待される道内研究者への支援を行い、当該分野における研究・技術シーズの育成と将来的な実用化および社会実装の促進を図った。

<応募・採択結果>

17 件の応募を受け、産学官の有識者からなる審査・専門委員の審査を経て、6 件の研究テーマを採択した。

事業名	補助金名	応募件数	採択件数	補助金額
半導体/GX 関連技術シーズ育成事業 (補助率 10/10)	半導体関連技術シーズ育成補助金	10	4	10,675 千円
	GX 関連技術シーズ育成補助金	7	2	5,999 千円
	合計	17	6	16,674 千円

<採択テーマ>半導体関連技術シーズ育成補助金

No	研究テーマ名	研究者
1	CMP 過程の実測およびシミュレーション技術の開発	北海道大学 大学院 工学研究院 教授 島田 敏宏
2	ハイパワー半導体パッケージング用高放熱材料と接合技術の研究	北海道科学大学 工学部 教授 見山 克己
3	光走査熱量計のハイスループット半導体サーマルアナリシスへ応用	苫小牧工業高等専門学校 創造工学科 准教授 渡邊 智

No	研究テーマ名	研究者
4	窒化ガリウム MOS 構造に有効な二酸化シリコン膜堆積技術の確立	北海道大学 量子集積エレクトロニクス研究センター 准教授 赤澤 正道

＜採択テーマ＞GX 関連技術シーズ育成補助金

No	研究テーマ名	研究者
1	多様な波条件下で発電可能な非線形波力発電機の開発	室蘭工業大学 大学院工学研究科 准教授 佐藤 孝洋
2	光で拓く炭素循環：計算化学で設計する次世代 CO ₂ 変換触媒	北海道大学 化学反応創成研究拠点 特任助教 田中 耕作三世

(5) 次世代型研究開発事業（自主）

ア．若手研究者とのネットワーク構築

若手研究者と道内企業との交流会開催やマッチングイベント等を開催し、産学連携創出に資する交流・連携を促進した。また、北海道科学技術奨励賞・推薦候補者の推薦を行い、旭川医科大学 安藤勝祥 助教が受賞した。

イ．研究助成案件のフォローアップ

採択研究グループ等の技術シーズについて、研究の進捗および発展性の把握を行い、専門家派遣や国等の研究開発プロジェクトへの展開に向けた助言を実施した。採択 65 件のうち、進展が見込まれる 45 件を対象に、研究進捗に応じた課題ヒアリングを行い、課題解決に資する支援情報の提供および今後の取組方針に関する意見交換を行った。

＜産学連携研究開発プロジェクトの創出・育成＞

(6) 産学連携研究成果展開事業（自主）

産学連携による研究成果の事業化を推進するため、各プロジェクトが直面する課題に対して専門家等による側面支援を行い、事業化プロジェクトの創出及び成長の促進を図った。その一環として、海外及び国内の事業推進機関等と情報共有・意見交換を実施し、事業化支援に係る専門機関とのネットワーク拡充を進めた。

(7) 成長型中小企業等研究開発支援事業（経済産業省補助）

中小企業等が産学官連携で行う高度なものづくり基盤技術及びサービスモデルの研究開発やその事業化に向けた取組等を一貫して支援した。

2025 年度は、新規 8 件獲得し、継続 4 件と合わせ 12 件のプロジェクトについて、事業管理機関として、研究開発計画の運営管理、共同体構成員相互の調整を行うとともに、研究開発成果の普及等を主体的に実施した。

＜実施プロジェクトの概要＞

No	項目	内 容
1	研究開発計画名	車両、橋梁等に用いるボルト・ナットの締結度検査装置の研究開発（2023 年度～2025 年度終了）
	参画機関	主たる研究等実施機関：日東建設(株)、アプライドリサーチ(株) 連携している大学・公設試等：富山県立大学

No	項目	内 容
	研究概要	「ホイール・ナットのゆるみ」が原因となる大型車の車輪脱落事故は、重大事故につながりやすく、国土交通省からトラック運送や整備業界などに注意喚起やねじ止め規格の見直しを要請しているが、歯止めはかかっていない。本研究開発では、大型車のタイヤ脱着作業時の打音検査で発生する音波の解析により、ホイール・ナットの締結を定量的に測定するテスターと打検ハンマを開発する。
2	研究開発計画名	AI 適応型運行モード組み換え技術の開発（2023～2025 年度終了）
	参画機関	主たる研究等実施機関：(株) 未来シェア 連携している大学・公設試等：北海道大学
	研究概要	地域の多様な実情やニーズ・条件に公共交通サービスを適合させるため、公共交通の運行形態の柔軟化を図り、AI オンデマンド交通 SAVS (Smart Access Vehicle Service) を中核とした、柔軟な次世代公共交通を実現する運行組み合わせ技術の確立を目指した。具体的には、Viapoint 機能を新たに実装し、多治見市および紫波町における実証を実施することで、バスやタクシー等の複数の交通サービスを状況に応じて柔軟に乗り合い利用できることを明らかにするとともに、その効果について検証を行った。
3	研究開発計画名	安全かつ安価で高推力な宇宙機用に亜酸化窒素を用いるハイブリッド化学推進系の開発（2023～2025 年度終了）
	参画機関	主たる研究等実施機関：Letara(株) 連携している大学・公設試等：北海道大学、室蘭工業大学
	研究概要	小型宇宙機に適した推進系がないため、宇宙での移動が困難であり、ミッションの限定、宇宙ゴミの増加及び深宇宙探査の限界等の問題がある。ハイブリッド化学推進技術を応用することで、爆発のリスクがなく、安全かつ安価で高推力な推進系の実現を目指した。ハイブリッドロケットエンジンの設計・結合実証試験を白老にて実施し、長時間燃焼・安定性評価を行うことで、基盤技術の確立に向けたデータを集積した。
4	研究開発計画名	乳酸菌由来細胞外小胞(EV)を用いた革新的機能性食品、化粧品原料の開発（2024～）
	参画機関	主たる研究等実施機関：アテリオ・バイオ(株) 連携している大学・公設試等：北海道科学大学、東京農業大学
	研究概要	自社開発の特許株ライラック乳酸菌は、大量の細胞外小胞 (Lilac01-EV) を放出し、強い抗炎症・免疫調整・組織修復作用を持つことから、品質と生産性に課題のあるエクソソームに代わる素材として有望である。本事業では、Lilac01-EV の食品としての機能性・安全性エビデンスの取得によって機能性食品を開発し、さらに分離・精製・乾燥技術の検証を行った。
5	研究開発計画名	環境に優れた電解エッチング法による EV 用絶縁回路基板の新規高速製造技術(新規)
	参画機関	主たる研究等実施機関：(株) FJ コンポジット 連携している大学・公設試等：大阪大学、苫小牧高専
	研究概要	絶縁回路基板製造におけるエッチング加工は、有毒な塩化鉄や過硝酸アンモニウムを用いるため、人体や環境への配慮が必須である。本研究開発では、比較的安全な塩酸と硫酸を用い、銅の電気泳動によりエッチング加工を行うことで廃液が発生せず、コスト及び環境面で優位性が高い新規開発技術を確認させ、既存取引先との受注増や、引き合いがある大手国内自動車メーカー等との新規事業化を目指す。
6	研究開発計画名	切断用ダイヤモンド工具の製造条件の最適化と国内製造プロセス確立に向けた研究開発（新規）
	参画機関	主たる研究等実施機関：(株) コバルテック 連携している大学・公設試等：(地独) 北海道立総合研究機構
	研究概要	ダイヤモンド工具は、超硬材工具と比較し幅広い材質の切削・切断能力を有し、作業時の振動、騒音、飛散する粉塵が少ない等優位な点が多いが、高価格で耐久性が低いことが課題である。本研究開発では、製造工程の基幹技術である溶着加工の研究開発に取り組み、内製化を実現することで、溶着ダイヤモンド工具市場を世界的にリードできる企業へ成長することを目指す。
7	研究開発計画名	人工衛星ロケットエンジンへの高積載重量を実現する耐熱・耐熱衝撃性コーティング皮膜の開発（新規）
	参画機関	主たる研究等実施機関：(株) ディー・ビー・シー・システム研究所 連携している大学・公設試等：北海道科学大学、秋田大学、(地独) 北海道立総合研究機構

No	項目	内 容
	研究概要	本研究開発では、人工衛星を宇宙空間に運ぶためのロケットエンジンの高性能化に関連し、高温燃焼ガスによる耐熱合金の温度超過を抑制するために使用されている冷却用燃料の消費量の低減と冷却構造の軽量化による衛星の高積載重量化を実現することを目的に、高温強度と耐熱衝撃性に優れたコーティングシステムを開発する。
8	研究開発計画名	低融点熱可塑性固体推進薬を用いた小型ロケットの研究開発（新規）
	参画機関	主たる研究等実施機関：(株)ロケットリンクテクノロジー 連携している企業・大学・公設試等：(株)植松電機、室蘭工業大学
	研究概要	固体ロケットは構造がシンプルで即応性に優れているが、現状技術では製造に手間と時間がかかるというボトルネックが存在する。低融点熱可塑性推進薬（LTP）は、製造期間を大きく圧縮しこのボトルネックを解消する。本事業では、LTPを小型観測ロケット、ガスジェネレータに応用するために、今年度、X線・超音波を用いた欠陥探傷技術の規格設定や、モータ及び点火器の開発のための燃焼試験などを行いガスジェネレータの開発を進めた。
9	研究開発計画名	次世代自動運転技術の社会実装を支える”説明責任AI”技術の開発（新規）
	参画機関	主たる研究等実施機関：(株)スクデット・ソフトウェア 連携している大学・公設試等：北海道大学、公立はこだて未来大学、(株)M2M クラフト、(株)アトリエ
	研究概要	次世代の自動運転は実用化が進む一方で、AI 判断のブラックボックス化により、説明責任の確保が川下企業における課題となっている。本事業では判断根拠をリアルタイムで提示する機能や、異常・事故時に原因説明レポートを生成する機能を備えた説明責任 AI 技術開発を目的として、E2E モデルの実装観点整理、車載制約下における実装可能性、リアルタイム説明生成方式などの検討を進めた。
10	研究開発計画名	メカノケミカル有機合成を活用した有機金属化合物の量産化技術開発（新規）
	参画機関	主たる研究等実施機関：(株)メカノクロス 連携している大学・公設試等：国立大学法人北海道大学
	研究概要	本事業では、メカノケミカル有機合成技術を用いて、従来法では実現困難であった「(A) 有機溶媒（以後、溶媒と略す）を大幅に削減した有機金属化合物の合成法」を確立し、それを基に「(B) 量産化プロセス技術」を構築する。今年度は量産化に向けた生産性向上、新規化合物の合成等に取組んだ。
11	研究開発計画名	新規合成トリプシンに対する性能評価系の開発、およびヒト遺伝子配列型GMPトリプシンの国内製造開発（新規）
	参画機関	主たる研究等実施機関：五稜化薬(株) 連携している大学・公設試等：公立大学法人大阪（大阪公立大学）
	研究概要	新規合成トリプシンに対する自社特許化合物を用いた性能評価系を開発し、当該評価系に基づくヒト遺伝子配列型トリプシンの国内GMP製造開発を促進させる。これによりトリプシンの安定供給性や品質担保への要求の充足、膵臓癌手術における膵液漏の可視化技術の社会実装に大きく寄与する。本事業では性能評価系を確立するため、市販製品の定量分析によってアッセイ系データの取得などを実施した。
12	研究開発計画名	進行固形癌に発現する新規標的クラス【癌型ムチン様糖ペプチド】に対する診断・治療用シード抗体の研究開発（新規）
	参画機関	主たる研究等実施機関：遠友ファーマ(株) 連携している大学・公設試等：北海道大学
	研究概要	細胞上のムチン様糖タンパク質は、難治性癌の創薬標的として期待されてきた。しかし、臨床的意義のある「真の標的部位」の見極めが技術的に困難であったことから、これまで有効な抗体やワクチンの開発に成功していない。本事業では、同社特許技術を基盤に、産学連携でこの技術的障壁を乗り越え、癌でのみ生じる糖鎖変化が惹起する新たな分子構造（ダイナミックエピトープ）を特定し、治療用シード抗体の試作と機能評価を実施した。

(8) スマート農業技術の開発・供給に関する事業（農研機構委託）

スマート農業技術活用促進法に基づきスマート農業技術の社会実装を推進するため、同法の基本方針に位置付ける重点開発目標に沿ったスマート農業技術の開発・供給の取組を

支援。2025年度は、新たに2件獲得し、研究管理運営機関として、研究開発計画の運営管理や共同体構成員相互の調整を行うとともに、研究開発成果の普及等を実施した。

<実施プロジェクトの概要>

No	項目	内 容
1	研究開発計画名	露地野菜の安定供給を支える選別出荷施設省人化のための重量野菜自動整列システムの研究開発（新規）
	参画機関	ホクレン（農協連）、立命館大学、北海道大学、（地独）北海道立総合研究機構、アドバント（株）、全国農業協同組合連合会（JA 全農）
	研究概要	山積み状態の大根（水・土・葉付着）を人手により整列、位置合わせを行い、葉切装置・洗浄装置へ送る一連の作業の省人化を実現するロボットシステムの研究開発を行う。具体的には、①重量野菜（大根）把持用ロボットハンドの開発、②画像認識とロボット制御を統合したシステムの開発、③大根の整流・安定搬送を実現する搬送機構の開発、④実装に向けた市場性の評価に取り組む。
2	研究開発計画名	デジタルツイン技術を活用したウェアラブルマニュアルによる搾乳作業の軽労化デイリーナビがもたらす労働生産性の向上（新規）
	参画機関	北海道大学大学院情報科学研究院、帯広畜産大学、中央大学、北電興業（株）、（株）スマートサポート、（株）リープス、JA 道東あさひ
	研究概要	搾乳舎のデジタルツインと作業者の動作センシングを活用し、リアルタイムで作業指示を提示する「ウェアラブルマニュアル」による搾乳作業支援方式を確立する。固定カメラとウェアラブルデバイスにより作業を分析し、標準手順に基づくスコアリングや誤作業警告機能を実装する。作業標準化と負担軽減を通じて生産性向上を図るとともに、現場に即したスマート生産方式の導入を実証する。技術運用はサービス事業者が現場支援・機器保守を担い、農協と連携して営農指導体制を構築する。

(9) 研究開発支援に係る合同施策説明会等開催事業（経済産業局委託）

中小企業やスタートアップ企業のプロジェクトの事業化のため、資金調達、起業支援、技術革新・実証支援、事業化・販路開拓支援等の幅広いニーズに対応した支援施策を効果的に活用してもらうことを目的に、15 機関の支援メニュー等を紹介する「支援制度個別相談会・合同施策説明会」を実施した。

開 催 日	2026 年 1 月 22 日 9:30～17:30
開 催 場 所	ACU アスティ 45 16 階
参 画 機 関	15 機関 日本医療研究開発機構、科学技術振興機構、農業・食品産業技術総合研究機構、産業技術総合研究所、新エネルギー・産業技術総合開発機構、国際協力機構、日本貿易振興機構、工業所有権情報・研修館、中小企業基盤整備機構、北海道立総合研究機構、日本政策金融公庫、北海道総合通信局、経済産業省イノベーション・環境局、北海道経済産業局、ノーステック財団
参 加 者 数	① 個別相談会：9 件（企業・団体：7 件、大学等研究者：2 件） ② 合同施策説明会：85 名（会場：33 名、オンライン：52 名）
内 容	① 個別相談会 個別案件の相談を複数の参画機関で同時に対応し、アドバイスを行った。 ② 合同施策説明会 参画機関がそれぞれの支援メニュー等を紹介。 ③ 交流会 参画機関のブースを設置し来場者に対応。合同施策説明会と並行して実施。

<大学発スタートアップ創出に向けた支援>

(10) スタートアップ・エコシステム共創プログラム事業（JST 委託）

北海道大学を主幹機関とする「北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワー

ク（HSFC：エイチフォース）」に共同機関として参画し、道内の大学・高専における新たなシーズの発掘や伴走支援、研究成果と起業・事業化までのギャップを埋めるための研究開発資金（GAP ファンド）の募集・選考、ベンチャーキャピタル（VC）などとのマッチングに向けた研究成果発表会（DemoDay）等を開催した。

ア．新たなシーズ発掘と伴走支援

GAP ファンドの認知向上および申請数の拡大を目的に、道内各大学の産学連携部門と連携し、制度説明、研究シーズの個別ヒアリング、申請書作成支援から採択後の伴走支援まで一貫した支援を実施した。

a．研究シーズ発掘

公開情報および当財団補助金の採択実績等をもとにシーズリストを作成し、有望シーズを選定したうえで、起業支援人材と連携し、対象研究者への個別説明および研究ヒアリングを実施した。

b．研究シーズ育成（研修・メンタリング）

研究者のスタートアップ意識の向上を図るとともに、支援プログラムへのマッチングや申請書作成支援等のメンタリングを通じて事業化検討を後押しした。加えて、大学発スタートアップに関する研修および起業支援人材向けセミナーを実施し、地域全体の支援力向上に寄与した。

① 日時：2025 年 12 月 12 日 @TKP 札幌赤れんが前

講師：桶谷氏（ReGACY Innovation Group 取締役兼執行役員）

概要：大学等に所属する起業支援人材 18 名参加、スキル向上に寄与

② 日時：2026 年 2 月 13 日 @オンライン

講師：隅田氏 他（(株)産学連携研究所）

概要：医療分野に特化した内容でセミナーを実施、起業支援人材 9 名参加

c．研究者と経営者人材（CxO）のマッチング

起業を目指す研究者とスタートアップに関連した経営的役割を志望する経営者人材（CxO）とのマッチングのための取組を実施した。

① NEDO「大学発スタートアップにおける経営人材確保支援事業（MPM）」（連携実施）

共同機関の研究者 5 名がマッチング成立し、事業開発の推進に寄与した。

② 連携経営人材マッチングプログラム「北海道 BRAVE」（連携実施）

共同機関の GAP ファンド採択者 4 名が参加し、経営人材との接点創出および事業化検討の促進につながった。

イ．GAP ファンド採択案件の募集・選定

68 課題の応募を受け、産学官の有識者からなる審査委員の審査を得て、以下の 31 課題を選考し、研究成果の起業・事業化に向けて支援した。

<応募・選考結果>

区分	支援限度額	支援期間	応募件数	選考件数
ステップ1（応用研究）				
・ユニコーン志向型SU創出プログラム	500万円以内	最長1年間	36課題	18課題
・ゼブラ志向型SU創出プログラム	300万円以内	最長1年間	19課題	4課題
ステップ2（概念実証・スタートアップ組成）				
・ユニコーン志向型SU創出プログラム	6,000万円以内	最長3年間	11課題	7課題
・ゼブラ志向型SU創出プログラム	500万円以内	最長1年間	2課題	2課題
合計			68課題	31課題

<ステップ1> 22課題

【ユニコーン志向型SU創出プログラム（U型）】18課題

※所属・役職等は採択時

No	研究開発課題	研究代表者
1	CMO/CDMO 向け微生物プロセス用高性能合成培地の開発と事業化可能性検証	北見工業大学 工学部 教授 小西 正朗
2	既設コンクリートを森林よりも高効率な大気CO ₂ 吸収体へ～DAC コートの開発と社会実装	北海道大学 大学院工学研究院 教授 北垣 亮馬
3	社会的ひきこもりの生物心理社会モデルに基づく予防法・早期支援法の開発	北海道大学 大学院医学研究院 教授 加藤 隆弘
4	レーザ援用超音波探傷イメージングを用いた遠隔インフラ診断	室蘭工業大学 大学院工学研究科 助教 荘司 成熙
5	心臓外科手術支援に特化したAIプラットフォーム	公立はこだて未来大学システム 情報科学部 教授 佐藤 生馬
6	タンパク質と修飾剤を最適に繋ぐプラットフォームシステムの開発	北海道大学 大学院地球環境科学研究院 教授 小野田 晃
7	脳卒中片麻痺者に対する推進力アシストインソールの世界展開	北海道科学大学 保健医療学部 教授 昆 恵介
8	細胞内代謝をターゲットとした自己免疫疾患に対する新規治療薬の開発	北海道大学病院 リウマチ・腎臓内科 講師 河野 通仁
9	個別化がんワクチン設計AIプラットフォームの開発と事業化	札幌医科大学 医学部 名誉教授 鳥越 俊彦
10	物語構造分析に基づくコンテンツ制作者向け物語創作支援システム	公立はこだて未来大学システム 情報科学部 教授 村井 源
11	線維病巣へ集積する小分子抗体DDSによる慢性腎臓病の創薬基盤	北海道科学大学 薬学部 准教授 戸上 紘平
12	認知症診断支援のためのアミロイドPET 定量化ソフトの開発	北海道大学 大学院医学研究院 准教授 平田 健司
13	鉱山開発が産んだネガティブアセットを“CO ₂ 除去工場”に	北海道大学 大学院工学院 修士課程1年 佐藤 遼弥
14	省エネルギー脱硝を実現する低温作動触媒の開発	北海道大学 触媒科学研究所 教授 村山 徹
15	スマホ連携型ポータブル水質セーフティ細菌検査キット開発	北海道大学 大学院工学研究院 教授 佐藤 久
16	粉体物理に基づいた革新的な微粒子選別システムの開発	北海道大学 大学院工学研究院 准教授 原田 周作
17	難治性消化管病変に対するゼラチンハイドロゲル粒子型MSCによる革新的局所療法の技術開発と事業化検討	札幌医科大学 医学部 教授 永石 敏和
18	レザバーコンピューティングを用いた指角度・指関節トルクを推定可能な筋電義手制御システムの開発	公立はこだて未来大学システム 情報科学部 教授 櫻沢 繁

【ゼブラ志向型 SU 創出プログラム (Z 型)】4 課題

※所属・役職等は採択時

No	研究開発課題	研究代表者
1	転倒リスクタイプ別トレーニング提案システムの開発とエビデンス構築	北海道科学大学 保健医療学部 教授 佐藤 洋一郎
2	スマート農業と快適環境に貢献する温度応答型無電源遮光フィルムの開発と社会実装	室蘭工業大学 大学院工学研究科 准教授 馬渡 康輝
3	老朽下水管調査の効率化を実現する EEM 蛍光指紋法による下水水質分析受託事業の開拓	北海道大学 大学院工学研究院 助教 中屋 佑紀
4	携帯分光XAI によるオンサイト牧草・土壌診断技術	帯広畜産大学 畜産学研究科 博士前期課程 1 年 翫 美里

＜ステップ 2＞ 9 課題

【ユニコーン志向型 SU 創出プログラム (U 型)】7 課題

※所属・役職等は採択時

No	研究開発課題	研究代表者
1	災害レジリエンスと水素社会を支える白金フリー燃料電池触媒の事業化	北海道大学 触媒科学研究所 准教授 武安 光太郎
2	難治性間質性肺炎に対する IL-6 アンブを標的にした非侵襲ニューロモデュレーション療法の確立	北海道大学 遺伝子病制御研究所 教授 村上 正晃
3	植物が作り出す二次代謝物の量をコントロールする方法	北見工業大学 工学部 准教授 陽川 憲
4	健全な窒素循環のための家畜ふん尿メタン発酵消化液を用いた拡散駆動型微細藻類生産技術の開発	北海道大学 大学院工学研究院 教授 石井 一英
5	フローマイクロ法による化学産業の革新	北海道大学 大学院理学研究院 教授 永木 愛一郎
6	類似性と樹頂点特徴を使用したゼロショット樹冠検出	北海道大学 大学院工学研究院 准教授 江丸 貴紀
7	鉱山の選鉱プロセス設計・評価・最適化支援のための機械学習モデルの開発	北海道大学 大学院工学研究院 教授 廣吉 直樹

【ゼブラ志向型 SU 創出プログラム (Z 型)】2 課題

※所属・役職等は採択時

No	研究開発課題	研究代表者
1	HARP 誘導ゲル及び専用特殊マイクロプレートをコアとした CSC 高含有スフェロイド/PDX マウス提供サービスの事業化	北海道大学 大学院先端生命科学研究院 教授 黒川 孝幸
2	微生物セルロースを原料とするマイクロ繊維およびシート材の開発	北海道大学 大学院工学研究院 准教授 田島 健次

ウ. マイルストーン評価の実施

2024 年度に GAP ファンド（ステップ 1）に採択された研究開発課題（19 課題）を対象に、申請当初に設定したマイルストーン達成に向け、研究開発面、事業化面ともに研究計画書の進捗状況などについて、審査委員による評価を実施した。

エ. 研究成果発表会の開催

2024 年度の GAP ファンド（ステップ 1）に採択した研究開発課題（19 課題）を対象に、研究開発成果の発表や VC 等とのマッチングの場として、「HSFC DemoDay 2025」を開催した。

行 事 名	HSFC DemoDay 2025
開催日時	2025 年 9 月 11 日 10:30～17:00
場 所	京王プラザホテル札幌、オンライン
内 容	【プログラム】 (1) 開会あいさつ 北海道大学 総長 寶金 清博（動画出演） 北海道大学 産学・地域協働推進機構 スタートアップ創出本部 本部長 小野 裕之 (2) 第 1 部ピッチ&ポスターセッション ①高度に構造の制御された人工高分子材料の生産事業に向けた検討 北海道大学 特任助教 芦刈 洋祐 ②省人型研究開発を可能とする自動フロー合成システムの開発 北海道大学 教授 永木 愛一郎 ③超高感度光学式マイクロ熱量計の開発および創薬結晶工学への応用 苫小牧工業高等専門学校 准教授 渡邊 智 ④がん幹細胞誘導ゲルならびに専用培養ディッシュの事業化検討 北海道大学 教授 黒川 孝幸 ⑤三次元水位差灌流細胞培養法の開発と応用展開 北海道大学 助教 石原 誠一郎 ⑥認知症やてんかんの免疫学的関与の早期診断方法の開発 北海道大学 准教授 矢口 裕章 (3) 第 2 部ピッチ&ポスターセッション ⑦経内視鏡に使用可能な医療用ハイドロゲルの開発 北海道大学 特任助教 大野 正芳 ⑧遺伝子発現抑制配列の破壊による有用作物品種の開発 北海道大学 教授 尾之内 均 ⑨植物が作り出す二次代謝物の量をコントロールする方法 北見工業大学 教授 陽川 憲 ⑩牛ふんメタン発酵消化液を用いた拡散駆動型微細藻類培養技術の開発 北海道大学 教授 石井 一英 ⑪データセットなしで作物と雑草を識別するアプリケーションの開発 北海道大学 博士後期課程 3 年 井内 悠介 ⑫力覚を有する誰でも作業教示可能な汎用ロボットと水産業の改革 北海道大学 博士後期課程 2 年 牧 駿 ⑬生魚消費者がアニサキス症の発症を自己防衛できる経口摂取物 北海道科学大学 教授 丁野 純男 (4) 第 3 部ピッチ&ポスターセッション ⑭産業用バイオナノファイバー生産プロセスおよび繊維材料の開発 北海道大学 招へい教員 高濱 良 ⑮水素利用のための高耐久・低コストな白金フリー触媒の事業化 北海道大学 准教授 武安 光太郎 ⑯温室効果ガス N_2O を分解する固体触媒・プロセス開発 北海道大学 准教授 鳥屋 尾隆 ⑰新規鉱山の選鉱プロセス設計支援のための機械学習モデルの開発 北海道大学 教授 廣吉 直樹 ⑱アルカリ膜水電解によるアドオン型重水製造装置の開発 北海道大学 博士後期課程 1 年 佐藤 衣吹 ⑲グローバルサウスでの水処理に向けた自律浮沈水浄化材の性能評価 北海道科学大学 講師 三原 義広
主 催	北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク（HSFC：エイチフォース）
共 催	STARTUP HOKKAIDO 実行委員会
協 力	北大リサーチ&ビジネスパーク推進協議会
特別協力	NoMaps 実行委員会
参 加 者	280 名（うち、オンライン参加者：138 名）

2. バイオ・ヘルスケア産業の育成・創出

超高齢社会に対応した医療・ヘルスケア分野の成長を見据え、専門人材との連携のもと、地域企業の新規参入や製品開発、バイオ系スタートアップの課題解決を支援した。

また、道内バイオ関連企業の国際展開を見据えた展示会出展支援や、道民の健康促進と道産食品の付加価値向上に向けた、機能性食品の開発に対する支援を実施した。

<新事業創出に向けた研究開発支援>

(1) 先端研究産業応用検証事業（札幌市補助）

医療関連産業の活性化を目的として、先端的な技術シーズ・研究基盤を活かして治療や予防医療の事業化に取り組む札幌市内企業の研究開発を支援した。

ア. デジタルヘルス分野

デジタル技術を活用して治療や予防医療に関する事業化を目指す研究開発を支援した（※PHR（パーソナルヘルスレコード）を活用する取組みを優先）。

<応募・採択結果>

7 件の応募を受け、産学官の有識者からなる審査委員の審査を経て、4 件を採択した。

事業名	補助金名	応募件数	採択件数	補助金額
先端研究産業応用検証補助事業	先端医療産業促進補助金 デジタルヘルス分野（補助率 2/3）	7	4	7,347 千円

<採択テーマ>

No	事業名	企業名
1	計算流体力学(CFD)による先天性心疾患の血流評価法の開発	(株)AIS 北海道
2	看護・移動・歯科連携による PHR 活用型予防支援モデルの研究開発	(株)かんどぷらす
3	Android 版デジタル装具@手帳の開発	(有)テックワークス
4	週間健康可視化サービスへのパーソナルヘルスレコード導入と実証	(株)ミルウス

イ. 感染症対策分野

先端的な技術シーズを活用して行う感染症の予防や治療に関する研究開発を支援した。

<応募・採択結果>

3 件の応募を受け、産学官の有識者からなる審査委員の審査を経て、2 件を採択した。

事業名	補助金名	応募件数	採択件数	補助金額
先端研究産業応用検証補助事業	先端医療産業促進補助金 感染症対策分野（補助率 2/3）	3	2	8,750 千円

<採択テーマ>

No	事業名	企業名
1	新規重症感染症治療薬創製に向けた抗 CXCR3 抗体の開発	(株)エスビー健康研究所
2	メモリーB 細胞産生抗体マッピングによる免疫獲得履歴検出	(株)日本薬志

(2) 医療連携開発支援事業（札幌市補助）

医療機関等の現場従事者や患者等を取り巻く新たなニーズや課題解決を目的として、将来的な実用化・事業化を目指す企業による技術・製品開発を支援した。

<応募・採択結果>

8 件の応募を受け、産学官の有識者からなる審査委員の審査を経て、6 件を採択した。

事業名	補助金名	応募件数	採択件数	補助金額
医療連携補助事業	医療機関ニーズ対応型開発補助金（補助率 10/10）	8	6	4,760 千円

<採択テーマ>

No	事業名	企業名
1	砂糖の薬効を活かした皮膚疾患対応シュガースクラブ石鹸の開発	(株)アビサル・ジャパン
2	発達障害児支援のための、プブノート個別対応機能開発	(株)クランバーズ
3	使用済み紙おむつリサイクル装置の製造開発と実証試験の実施	サステナブルクリエイト(株)
4	認知症対策へ記憶力を評価する簡便なアプリの開発	(株)サンクレエ
5	デジタル装具手帳への多職種連携機能の実装と実証実験	(有)テックワークス
6	測定困難な小児の血圧測定を可能にするウェアラブルセンサの開発	(株)ミルウス

(3) 研究開発支援補助等運営事業（札幌市補助）

研究開発テーマの公募・周知、採択テーマの選考審査、補助金の交付・適正管理、研究開発テーマのフォローアップ等を実施し、各種補助事業の円滑な運営を行った。

<新規参入企業・スタートアップの課題解決支援>

(4) ヘルスケア関連製品開発促進事業（北海道委託）

医療・介護・福祉分野における人手不足や業務効率化等の課題に対応するため、道内 IT・ものづくり企業が有するデジタル技術を活用した製品開発を促進するため、研修会や交流会等を実施し、ヘルスケア関連企業の事業拡大と雇用創出を支援した。

ア. ヘルスケア関連製品開発促進研修会開催

a. 医療機器等関連製品産業参入研修会

道内 IT・ものづくり企業による医療機器関連製品の開発促進を目的として、医工連携の取組みに関する講演や事例紹介、ならびに医療従事者のニーズを紹介する研修会を開催した。研修会後には医療従事者と企業とのマッチングを実施し、医療機器関連製品の開発に向けたきっかけを創出した。

開催日	2025 年 12 月 19 日 14:00~17:30
主催	北海道、札幌医科大学、ノーステック財団
参加者数	25 名（うち企業 14 社/18 名、行政・研究機関等 7 社/7 名）
内容	「福島県の医療機器開発の取組と参入事例の紹介」 ふくしま医療機器開発支援センター センター長 宮村 安治 氏 (株)朝日ラバー 代表取締役社長 渡邊 陽一郎 氏 「札幌医科大学のニーズ紹介」 札幌医科大学 板垣 史郎 氏 ほか 9 名

b. 介護・福祉機器等関連産業参入研修会

介護・福祉分野における人材不足等の課題解決を目的として、ICT やロボット技術の導入・活用をテーマに、IT 企業やものづくり企業等を対象とした研修会を開催した。研修会では、専門家および介護事業者から現場の状況や機器開発の動向等について情報提供を行い、介護・福祉機器分野への参入に向けた理解促進を図った。

開催日	2026年1月20日 14:00～17:00
主催	北海道、ノーステック財団
参加者数	24名（うち企業17社／21名、行政・研究機関等3社／3名）
内容	「介護・福祉機器開発における参入のポイント」 (公財)テクノエイド協会 企画部長 五島 清国 氏 「介護事業紹介」 (医)母恋 老人保健施設母恋 介護課長 佐々木 悠佑 氏 (医)母恋 看護小規模多機能型居宅介護 つむぎ 所長 工藤 美香 氏 介護主任 小甲 朋広 氏

イ．ヘルスケア関連製品事業化促進交流会

a．北海道臨床工学会展示会「医工連携ホスピタリティー」

医療機器に精通し、現場ニーズを把握する臨床工学技士との接点創出を目的として、北海道内の臨床工学技士が参加する北海道臨床工学会に出展した。道内の医工連携の取組を紹介するとともに、道内企業と臨床工学技士との意見交換の機会を提供し、ヘルスケア関連製品の開発・改良に向けた連携促進を図った。

開催日	2025年11月23日 9:00～15:00	
場所	北海道大学 学術交流会館	
主催	北海道、ノーステック財団	
参加者数	281名（学会全体）	
	企 業	展 示 製 品
1	(株)キシブル	・VR教育コミュニケーションツール「iVRES」
2	タキゲン製(株)	・点滴スタンド用電源コンセント ・ベッド柵、ベッド柵自立スタンド向けフック類 ・くるくる egg
3	電制コムテック(株)	・電気式人工喉頭 ・高照度光照射装置 ・脊柱側弯症検査支援装置
4	(有)北海化成工業所	・コイルサポート台
5	ボーダレス・ビジョン(株)	・Kizuna Web
6	(株)メディカルプロジェクト	・穿刺部保護用メッシュカバー ・透析用抜針予防用シーネ 他 ・クリップセンサー
7	(株)ロケットスタジオ	・救護再現アプリケーション ・コミュニケーションボード

b．江別市立病院 意見交換会

医工連携に取り組む道内IT企業およびものづくり企業の製品開発と販路拡大を目的に、江別市立病院の医療従事者に向けた、製品展示および意見交換会を開催した。現場視点を踏まえた製品の改良のヒントや新たなニーズ把握の場となった。

開催日	2025年12月11日 10:00～19:00	
場所	江別市立病院 講義室	
主催	北海道、江別市立病院、ノーステック財団	
参加者数	60名	

	企 業	展 示 製 品
1	(株)キシブル	・ VR 教育コミュニケーションツール
2	タキゲン製(株)	・ 点滴スタンド用電源コンセント ・ ベッド柵、ベッド柵自立スタンド向けフック類 ・ くるくる egg
3	(株)中央ネームプレート製作所	・ 手術室ケーブルガード
4	(株)プリズム・メディカル	・ prism 健診システム
5	(有)北海化成工業所	・ コイルサポート台
6	北海道ポラコン(株)	・ CT 撮影時腕支持器具
7	ボードレス・ビジョン(株)	・ Kizuna Web
8	(株)MELBEC	・ 点滴クランプ
9	(株)リッジ・ワークス	・ LINE を活用した診察受付アプリ ・ アイモセンス-f

(5) 新規参入支援事業（札幌市補助）

ア．交流会イベント「デジタルヘルス領域の最新動向と参入戦略」

高齢社会や AI 技術の進展を背景に関心が高まるデジタルヘルス分野について、最新の市場動向や参入時の課題を紹介するとともに、シーズ発表を通じて、産学連携や共同研究、事業化につながる交流・マッチングの機会を提供した。

開 催 日	2025 年 10 月 17 日
開 催 場 所	札幌ガーデンパレス 2 階 丹頂の間
参 加 者 数	43 名
開 催 内 容	【基調講演】 「デジタルヘルス、市場動向と未来像」 日経 BP 総合研究所 リサーチユニット部長・SDGs ラボ所長 小谷 卓也 氏 【セミナー】 「デジタルヘルス事業化の勝ち筋 ～ヘルスケア DX 導入の成功と失敗から学ぶ～」 MINLABO(同) 代表社員 三原 義久 氏 【研究者のシーズ/ニーズ発表】 ① 「小児集中治療×AI：ベッドサイド情報の非接触取得 技術協力をお願い」 (一社)Heartkids' LIFELINK 主任研究員 酒井 渉 氏 ② 「遺伝子発現データの機械学習によるドラッグリポジショニング候補探索法」 北海道大学 大学院情報科学研究院 教授 遠藤 俊徳 氏 北海道大学 大学院情報科学院 博士後期課程 丛 怡 氏 ③ 「心臓疾患に対する統合型 AI 未来予測手術シミュレーションプラットフォーム - AI+VR+Robotic operation-」 札幌ハートセンター 札幌心臓血管クリニック 心臓血管外科部長 / 公立はこだて未来大学 客員教授 橘 一俊 氏 【交流会】

イ．企業に求める産学連携ニーズ発表会

北海道内の研究者と企業の産学連携による新規事業創出を目的とした、産学連携ニーズ発表会をオンラインで開催した。

開催日	2026年3月24日
開催場所	オンライン
参加者数	38名
開催内容	【産学連携ニーズ発表】 ①「背中に敷くだけで腹式呼吸を促進する補助具の開発」 (医)春佳会スウェーデンヒルズ耳鼻咽喉科 理事長・院長 東山 佳澄 氏 ②「PICU 専門医クローン AI 基盤構築の技術ニーズ」 (一社) Heartkids' LIFELINK 主任研究員 酒井 渉 氏 ③「高齢脳卒中患者における退院時日常生活自立度 AI 予測アプリの社会実装」 北海道科学大学保健医療学部理学療法学科 助教 松田 涼 氏 ④「AI 行動分析を用いた独居高齢者に対する軽度認知障害の遠隔的自動把握システムの開発」 札幌医科大学保険医療学部理学療法学科 准教授 井平 光 氏 ⑤「マルチスペクトルイメージングによる内視鏡診断システムの開発」 北海道大学大学院工学研究院 助教 岡田 夏男 氏

ウ. 札幌市医療関連産業及びバイオ関連企業調査

札幌市内のバイオ関連企業の売上高、従業員数等の調査を行い、バイオ関連産業の成長の推移を検証した。

エ. アドバイザー派遣

バイオ・ヘルスケア・医療・ライフサイエンス分野の札幌市内企業及び起業予定者、研究者を対象に、事業展開・研究進展・課題解決を支援する専門家をアドバイザーとして派遣した。

アドバイザー	派遣先	概要
BlackFields Consulting 黒田 垂歩 氏	小野田 晃 氏 (北海道大学大学院 教授)	事業戦略策定支援、研究者マッチング支援等
MINLABO(同) 山本 快仁 氏	(有)テックワークス	展示会出展事前準備、ビジネスモデル構築支援
(株)ネモト・サイエンス 田川 吉彦 氏	五稜化薬(株)	診断薬の国内第 1/2a 相試験に係る薬物動態に関するコンサルティング支援
さつきアドバイザー (株) 坂田 康明 氏	(株)ミルウス	資本政策策定、ストックオプション設計
カントミント(株) 中本 大和 氏	(株)かんごふらす	札幌ウェルネスビジネスコンテスト最終審査会に向けた、プレゼンテーションや資料作成等に係る個別アドバイス
	(株)Cocokara	
	Wonder Drill(株)	
	Haru Project	

オ. 札幌ウェルネスビジネスコンテスト

市内企業及びスタートアップ人材が構想・展開するウェルネス関連製品・サービスのビジネスプランを発掘し、ピッチコンテストを開催。優れた取り組みを表彰した。

<書類審査>

イベント名	部門	応募件数	選定件数
札幌ウェルネスビジネスコンテスト	ビジネス部門	18	5
	アイデア部門	8	2
	合計	26	7

<最終審査>

開催日	2025年12月17日
開催場所	札幌市図書・情報館
参加者数	68名
開催内容	【基調講演】 「からだを知れば、働き方が変わる！～女性の健康が拓く Wellness 社会」 医療キャスター／(株)WELlyou 代表取締役 松本 裕子 氏 【プレゼンテーション：アイデア部門】 ①「女性の健康管理エージェントアプリ『Haru』」 Haru Project 正重 香名子 氏 ②「Synapse café」 平川 守優 氏 【プレゼンテーション：ビジネス部門】 ①「Kango Plus Wellness Station ― Travel & Care ― （副題：Sapporo Wellness Station 2026）」 (株)かんどふらす 中田 亜由美 氏 ②「産後うつ予防のための宿泊型×オンライン×短時間預かり総合ケアモデル Cocokara」 (株)Cocokara 高橋 奈美 氏 ③「運動・スポーツ情報検索プラットフォーム「Citta (チッタ)」」 ラグスタ(株) 松井 明代 氏 ④「救急情報一元化アプリコエレクト」 Wonder Drill(株) 平山 傑 氏 ⑤「サステナブルなウェルネス可視化・行動変容に向けた広告・データ活用による新たなビジネスモデルの開発と実証」 (株)ミルウス 南 重信 氏 【受賞者】 最優秀賞：WonderDrill(株) 研究開発賞：(株)ミルウス ウェルネス賞：ラグスタ(株) アイデア賞：平川 守優 【交流会】

カ．その他

外部資金獲得支援として、AMED 研究資金獲得（医療機器分野）に向けた個別相談会（2025年10月2日及び3日）を実施した。参加した研究者の AMED 研究資金への申請につながり、結果として北海道から4件の申請となり2件の採択となった。

(6) 展示商談会等参加支援事業（札幌市補助）

ア．国内展示会出展支援

札幌市内の IT・ものづくり企業等の健康・医療関連産業への新規参入、新事業展開を促進するため、展示会への共同出展支援を行うとともに、学会併設の企業展示会へのブース出展を支援した。

a．「国際モダンホスピタルショウ 2025」札幌・北海道企業共同出展ブース

開催期間	2025年7月16日～18日
場 所	東京ビッグサイト
内 容	「札幌・北海道企業共同出展ブース」を北海道と共に設置し、道内 IT・ものづくり企業の健康・医療関連産業への参入促進、販路拡大を支援した。 【出展企業数】9社

	●(株)キボロコ 事業内容：木製遊具製作 出展製品：インクルーシブ遊具「ユールボード」 ●(合同)クラウドエンジン 事業内容：クラウド IP 電話サービス開発運営、WEB マーケティング 出展製品：①着信転送クラウドサービス「りもふおん」 ②発信用 NFC カード「カケル」 ●システムデザイン開発(株) 事業内容：各種システム、クラウドサービス開発等 出展製品：ストレスチェック総合サービス「こころ Do!？」 ●(有)テックワークス 事業内容：ソフトウェア・アプリ開発 出展製品：装具状態の記録・管理・共有アプリ「デジタル装具手帳」 ●電制コムテック(株) 事業内容：電力事業分野製品の開発・販売、福祉・健康・医療分野製品の開発・販売等 出展製品：脊柱側弯症用スクリーニング確度測定機器「スコリオデバイス」 ●(株)ファーストプレス 事業内容：情報システムサービスのコンサルティング、ソフトウェア開発・販売他 出展製品：地域連携部門システム「firstpass/community-link」 ●ボーダレス・ビジョン(株) 事業内容：オンライン診療、遠隔コミュニケーションシステム開発 出展製品：①KizunaWeb トロリー「AZCONNECT」 ②KizunaWeb オンライン診療、服薬指導システム ●(株)ミルウス 事業内容：センサにより取得したデータの処理、蓄積、解析、評価及び提供 出展製品：①健康可視化クラウドサービス「MIRUWS WEEAK」 ②月～年定額で各指標を可視化するサービス「MIRUWS 365」 ●(株)メディカルプロジェクト 事業内容：医療機器の製造・販売、医療用品、福祉機器の製造・販売ほか 出展製品：①経鼻チューブ固定用テープ「抜いちゃイカン ライト」 ②光電センサー
商談件数	48 件（ブース訪問者 839 名）
来場者数	35,645 名

b. 「Care Show Japan 2026」札幌市企業共同出展ブース

開催期間	2026 年 2 月 25 日～27 日
場 所	東京ビッグサイト
内 容	札幌市企業共同出展ブースを設置し、市内 IT・ものづくり企業の新規参入及び競争力強化に向け、技術力や製品等の PR、販路拡大を支援した。 【参加企業数】8 社 ●アイフォーコム(株) 事業内容：システム設計、開発および製品開発 出展製品：デジタル問診票、介護施設向けインカムシステム ●(株)アビサル・ジャパン 事業内容：化粧品製造業・化粧品製造販売業 出展製品：メディケア W（皮膚障害、皮膚合併症などのケア）、カラダキレイ、バリアモイスト ●(株)サンクレエ 事業内容：基幹業務システム、AI 関連事業 出展製品：MotionMatrix（歩行動作の三次元解析）、CogniTap（記憶力の簡易測定器）、ふまねっと運動（転倒予防と認知機能の改善を目的とした運動／NPO 法人ふまねっと） ●(有)テックワークス 事業内容：システム提案、設計、開発、維持管理 出展製品：デジタル装具手帳 ●(株)社 NEXT INNOVATION 事業内容：介護事業、IT 事業など

	出展製品：介護連絡・申し送りアプリ「Contact Book」 ●(株)メディカルプロジェクト 事業内容：医療用品・介護用品の製造・販売 出展製品：浴槽見守りセンサー、トイレ見守りセンサー ●(株)リッジ・ワークス 事業内容：システム開発（ソフトウェア開発、アプリ開発、組み込み開発） 出展製品：aimoSense-f、自動服薬支援機『コックン「お薬よ～」』 LINEを活用した診察受付用アプリ（開発中） ●(株)ロケットスタジオ 事業内容：ゲームソフトウェア、スマホアプリ、PCソフトウェアの開発 出展製品：MetaQuest や MiRZA といったデバイスを使って心臓マッサージやコミュニケーションを行えるシステム
商談件数	19 件（ブース訪問者 840 名）
来場者数	8,875 名

c. 学会展示会出展支援

内 容	健康医療バイオ分野における札幌市内企業の販路拡大及び IT・ものづくり企業等の参入促進を支援するため、国内の学会に併設し開催される展示会への出展を支援した。 ①(株)アビサル・ジャパン 出展学会：日本家族看護学会 第 32 回学術集会（@札幌市） 開催日程：2025 年 9 月 20 日～21 日 ②(有)テックワークス 出展学会：第 12 回日本地域理学療法学会学術大会 in EZO（@札幌市） 開催日程：2025 年 10 月 11 日～12 日 ③(株)ミルウス 出展学会：The 20th EAI International Conference on Body Area Networks (BodyNets2025)（@岡山市） 開催日程：2025 年 12 月 2 日～4 日 ④(株)Zene 出展学会：第 36 回日本消化器癌発生学会総会（@福岡市） 開催日程：2025 年 12 月 16 日～17 日 ⑤(株)メディカルプロジェクト 出展学会：第 40 回日本がん看護学会学術集会（@大阪市） 開催日程：2026 年 2 月 21 日～22 日
商談件数	304 件

イ. 海外展示会出展支援

国外市場をターゲットとして医療・創薬分野などで研究開発を進める札幌市内のバイオ関連企業の販路拡大、ライセンス契約、技術提携の促進を図るため、海外で開催される展示商談会への出展支援を行った。

a. 2025 BIO International Convention

開催期間	2025 年 6 月 16 日～19 日
開催地	米国・ボストン（リアル開催）
内 容	米国をはじめとする海外のバイオ関連企業等への販路開拓、ライセンスビジネス展開等を促進し、札幌市の健康・医療関連産業の活性化を図った。 【参加企業数】2 社 ●(株)エヌビーエー健康研究所 事業内容：GPCR 標的抗体の創薬、GPCR 標的抗体取得のための創薬探索プラットフォームの開発・活用 製品/技術：MOGRAA：GPCR 抗体創薬プラットフォーム NBG029 および NBA1603：自己免疫疾患

	●五稜化薬(株) 事業内容：がん外科手術向けナビゲーションドラッグの開発 研究用機能性蛍光プローブの製造・販売 製品/技術：手術中に腫瘍を可視化する医薬品（製品：GCP-007）
商談件数	31 件

b. BIO Asia-Taiwan Exhibition 2025

開催期間	2025 年 7 月 23 日～27 日
開催地	台湾・台北（リアル開催）
内 容	北米、ヨーロッパ、アジアのバイオ関連企業等への販路開拓や、成長著しい台湾のバイオテクノロジー産業との連携を促進し、札幌市の健康・医療関連産業の活性化を図った。 【参加企業数】1 社 〔リアル参加〕 ●(株) エヌビーイー健康研究所 事業内容：GPCR 標的抗体の創薬、GPCR 標的抗体取得のための創薬探索プラットフォームの開発・活用 製品/技術：MOGRAA：GPCR 抗体創薬プラットフォーム NBG030：がん
商談件数	19 件

c. BIO-Europe 2025

開催期間	〔リアル〕 2025 年 11 月 3 日～5 日 〔オンライン〕 2025 年 11 月 11 日～12 日
開催地	オーストリア・ウィーン
内 容	欧州をはじめとする海外のバイオ関連企業等への販路開拓、ライセンス契約を促進し、札幌市の健康・医療関連産業の活性化を図った。 【参加企業数】1 社 〔リアル参加〕 ●(株) エヌビーイー健康研究所 事業内容：GPCR 標的抗体の創薬、GPCR 標的抗体取得のための創薬探索プラットフォームの開発・活用 製品/技術：MOGRAA：GPCR 抗体創薬プラットフォーム NBG029 および NBA1603：自己免疫疾患
商談件数	7 件

ウ. その他

ビジネス EXPO のノーステック財団ブースにおいて、2025 年度先端医療産業促進補助金（デジタルヘルス分野）及び医療機関ニーズ対応型開発補助金採択事業である(有) テックワークスの参入事例（デジタル装具手帳）を紹介した。

<機能性食品・健康関連産業創出>

(7) 道産機能性食品の開発・販路拡大推進事業（北海道委託）

豊富な農林水産資源と研究シーズを活用した付加価値の高い商品開発の取組みを促進するため、研修会の開催、食品事業者への相談対応、機能性素材の評価等を実施した。

ア. 人材育成研修（ヘルシーDo 創造塾）の開催

道産機能性食品の開発や販路開拓に携わる人材の育成を目的に、食品の高付加価値化やマーケティング等に関する研修「ヘルシーDo 創造塾」を開催した。

開催期間：2025年8月29日～11月13日＜全7回＞
参加者：13名（12名修了）

<開催概要>

	日程	講義テーマ	講師
1	8月29日 16:00～18:00	開講式、ガイダンス、受講生の自己紹介 ①機能性食品とは何か？～基礎理解と北海道での取り組み～ ②道産機能性食品の開発に向けて	①(一社)北海道バイオ工業会 三浦 健人 氏 ②(株)グリーンズ北見 丸山 勇太 氏
2	9月4日 16:00～18:00	道産素材のポテンシャル～地域資源の機能性を掘り起こす～	日経BP 総合研究所/(株)サルタ・プレス 西沢 邦浩 氏
3	9月25日 16:00～18:30	①『栄養』の観点から考える ～商品開発の鍵～ ②売れる方程式 売上＝商品力×販売力×広告力 ③グループワーク ―商品開発演習―	①札幌保健医療大学 金高 有里 氏 ②(株)エルアイズ 山本 亜紀子 氏
4	10月3日 14:00～17:00	①GMP ってなに？小規模でもできる衛生・品質管理 ②GMP 取得企業の体験談 ③問題解決ワークショップ	①(公財)日本健康・栄養食品協会 増山 明弘 氏 ②(株)リナイス 中野 英春 氏
5	10月23日 13:00～17:00	食関連施設見学会	①エア・ウォーターの森 ②株式会社アミノアップ
6	11月4日 16:00～18:00	①健康食品の表示と広告に関する法規制と注意点 ②東洋新薬における機能性表示食品への取り組み	①(一社)北海道バイオ工業会 三浦 健人 氏 ②(株)東洋新薬 佐藤 萌夏 氏
7	11月13日 16:00～18:00	①道産機能性食品の開発に向けて(ヘルシーDo 認定企業2社) ②情報提供(ヘルシーDo 申請ポイント、HOF00) 修了式、記念写真撮影 受講者の決意表明(ショートプレゼン)	①(合)やぶかわ農園 大川 聖之 氏 (株)バイオインダストリー 藤岡 弘明 氏 ②北海道 松本 秀満 氏 ノーステック財団 渡辺 雄大

イ. 高付加価値商品の開発に向けた相談対応

道産食材を使用した高付加価値商品の開発に関心のある食品事業者（生産、加工、販売）に対し、食品機能性表示制度の活用等に向けたアドバイス等を行った(14件)。

2025年度に認定を受けた商品

No	企業名	商品の名称	備考
1	(株) ニッポン	北海道産「金のアマニ」 ローストアマニ粒 個包装	
2	(有) 大中山ふでむら	にしん韃靼	
3	(株) HTS Planning	D r . Y O G U R T	2024年創造塾修了生
4	ホクレン農業協同組合連合会	寒締めほうれん草	
5	SS GLOBAL(株)	北海道鹿角霊芝	分析支援実施

ウ. 機能性素材を活用した商品開発の検討

機能性食品の新規開発およびヘルシーDo 認定を目的に、農産物やヘルシーDo 素材を使用した商品・試作品を対象に、機能性関与成分含有量の分析支援を行った。うち、2件が2026年度のヘルシーDo 申請を目指している。

No	対象食品	分析項目
1	トマトジュース	GABA
2	そばの実	GABA, ケルセチン, ルチン
3	さつまいも加工品	GABA
4	ガゴメ昆布加工品	食物繊維等
5	ブロッコリー	GABA, グルコラファニン
6	あずきパウダー	ポリフェノール
7	霊芝	β -グルカン
8	大豆, 大豆加工品	大豆イソフラボンアグリコン(アグリコン当量)
9	ケール	GABA, ルテイン

エ. 道産機能性食品の普及啓発に向けた取り組み

道内で開発された機能性食品のPRおよび販路拡大を目的に、展示会への出展を行った。

a. 「BioJapan2025」への出展支援

開催日	2025年10月8日～10日
場所	パシフィコ横浜
内容	バイオ・ヘルスケア領域の道内企業13社の展示会出展を支援すると共に、来場者にヘルシーDo制度や商品の紹介を行った。
来場者数	3日間の合計：22,167名

b. 「食品開発展 2025」への出展支援

開催日	2025年10月15日～17日
場所	東京ビッグサイト西1・2・4ホール&アトリウム
内容	ヘルシーDo認定素材を有する6社と共同出展を行い、ヘルシーDoおよび道産機能性素材のPRを行った。
来場者数	3日間の合計：37,716名

c. 「第39回 北海道 技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO）」への出展

開催日	2025年11月6日～7日
場所	アクセスサッポロ
内容	ヘルシーDo制度や商品の紹介を行い、一般来場者の他、原料メーカー、食品メーカー、小売業者への関心を高めた。
来場者数	2日間の合計：21,632人

※そのほか、(一社)北海道バイオ工業会が主体となり、沖縄大交易会、第39回北海道産品取引商談会、アルフレッサヘルスケア社 ソリューション提案商談会、食の大商談会インフォメーションバザール in TOKYO、サッポロウエシマ2025年 秋季展示商談会、Wellness Tokyo 2025、アルフレッサヘルスケア社 ライフサポートフェア2026、Supply Side Global (アメリカ)、Asia Pacific Food EXPO 2025 (シンガポール)、HOKKAIDO Premium Food Show (タイ) へのヘルシーDo認定商品の出品、販路開拓支援を行った。

オ. 研究シーズ集の作製

道内の医療・ヘルスケア分野の研究シーズを道内外の企業に広めるツールとして、また、新たな産学連携創出を図るため、道内の各大学から収集したバイオシーズを掲載する「2025 北海道健康・医療研究シーズ集」を作製した。

掲載機関：15 大学・高専 掲載シーズ数：日本語版 67 シーズ、英語版 19 シーズ

掲載分野：①医薬品・創薬、②感染症、③医療機器、④医療周辺機器、⑤介護・福祉機器、⑥食品・農林水産・畜産、⑦健康・ヘルスケア分野

カ．企業ガイドブックの作製

道内企業の新規連携創出や販路開拓等に向け、ヘルスケア分野に関連する技術・サービスを展開する道内企業の情報を掲載する「企業ガイドブック」を作製・頒布した。

掲載企業数：144 社

掲載分野：①健康・機能性食品、②化粧品、③医療・医薬品、④バイオ研究支援、⑤医療・福祉機器、⑥ヘルスケア IT

(8) バイオ・健康長寿産業創造事業（自主）

北海道内の機能性食品、医療・ヘルスケア関連企業の売上増加を目的に、道外展示会出展支援や健康食品の試作開発に取り組んだ。

3. ものづくり産業の育成と集積

ものづくり産業における人材確保や担い手不足の解決に向け、ロボット・デジタル化による生産性向上や新技術・新製品開発などに向けた取り組みを行った。

また、道内各地域のクラスター形成を促進するため、地域資源を活かした商品開発や販路拡大に対し、専門家の活用を含めて一連のサポートを行った。

<新技術・新製品開発、実用化・事業化に向けた支援>

(1) ものづくり開発・グリーン成長分野推進事業（札幌市補助）

「さっぽろ連携中枢都市圏」（※）内の中小企業者等が行う、「ものづくり分野」、「健康福祉・医療関連分野」及び「環境関連分野」における、新技術・新製品開発（既製品の改良を含む）への取り組みを支援した。

※札幌市、小樽市、岩見沢市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村、南幌町、長沼町

補助限度額（補助率）	対象分野	応募件数	採択件数	補助金額
補助限度額：500万円／件 （補助率：1/2以内）	食、健康福祉・医療、 製造、IT、	11	8	30,805千円
補助限度額：500万円／件 （補助率：2/3以内）	介護支援関連			
補助限度額：1000万円／件 （補助率：2/3以内）	環境関連			

<採択テーマ> 8件（札幌市内企業7社、市外企業1社）

No	テーマ名	企業名
1	ホタテ稚貝養殖漁業者のブイ浮沈の遠隔モニタリングシステムの開発	(株) アクアテック
2	「記憶と紙」をデジタルの共有資産に「ワインぶどう栽培のデータ基盤構築	(株) Adair
3	超指向性/超音波スピーカによる騒音課題解決害獣忌避方法の開発	(株) ウルフ・カムイ
4	EV向け放熱材に対応する”高速×高精度×省エネ”の革新加工技術の開発	(株) FJ コンポジット
5	ステンレス製生乳タンクの品質及び生産性向上に向けた溶接技術の高度化プロジェクト	(株) 土谷製作所
6	観光体験の可視化と多言語対応を実現する翻訳ツール開発による観光DX支援事業	(株) デジックアドヴァンス
7	次世代型点滴停止装置の研究開発	(株) MELBEC
8	水素供給設備向け超高压安全弁検査における作動判定の自動化技術開発事業	ワコオ工業(株)

(2) ものづくり産業育成支援事業（自主）

事業化・製品化支援を実施した事業のフォローアップを行うとともに、過年度において、前述「(1)ものづくり開発・グリーン成長分野推進事業」を活用して開発された製品等の事業化への補完的な開発や事業化、売上拡大に向けた取り組みを支援した。

補助限度額（補助率）	対象分野	応募件数	採択件数	補助金額
補助限度額：100万円／件 （補助率：10/10）	食、健康福祉・医療、 製造、IT、介護支援、 環境	4	4	3,250千円

<採択テーマ> 4件（札幌市内企業3社、市外企業1社）

No	テーマ名	企業名
1	展示会出展による戦略的な新商品の販売促進強化	(株) 南華園
2	ヘラクレスバリケード特設WEBサイトの開設	トライ・ユー(株)
3	ルーチェグラスの広告宣伝を利用した販売促進および販売拡大	電制コムテック(株)
4	デジタル装具®サービスの認知度向上及び販路開拓	(有) テックワークス

<省力化・労働生産性向上に向けた支援>

(3) 製造拠点省人化・省力化促進事業（自主）

地域経済を牽引している食品製造事業者を始め、道内中小製造業の製造拠点（工場等）における自動化・ロボット導入促進に向け、当財団が主体となり、行政機関、公設試、支援機関、企業等が情報共有・交流を通じて連携・協業を深めていくための支援基盤として、「北海道ロボット導入促進プラットフォーム」を設立(2025年6月13日)。

全道域での事業展開を進めるべく、経済産業省の主導により設立(2025年6月30日)された「全国ロボット・地域連携ネットワーク（略称：RINGプロジェクト）の正会員として参画し、国を挙げた各地域のロボット導入支援の取組をサポートする仕組みを活用した、効果的な支援体制の確立や全国の支援ノウハウの共有等を図った。

(4) 省力化投資促進支援体制強化事業（経済産業省委託）

北海道の食品製造分野をモデルとし、他分野・他地域への波及を視野に、支援機関等によるニーズの発掘から、省力化投資を提案するロボット SIer や機械メーカーへ円滑に橋渡しを行うための支援体制の構築及びソフト支援手法の確立に向けた各種支援に取り組んだ。

ア. 支援機関向けの座学・実地研修

座学研修	
名 称	食品製造業の生産性向上支援スキルアップ研修
開 催 日	2025年8月25日
開 催 場 所	TKP 札幌駅カンファレンスセンター
受 講 者 数	167名（会場25名、オンライン142名）
開 催 内 容	【講演】「食品製造分野における自動化検討とは」 RobotsTown（株）代表取締役社長 白坂 紳滋 氏 「企業の生産性向上を成功させる秘訣とは」 ヒューマテックジャパン（株） 代表取締役 永井 伸幸 氏 【生産性向上のソリューション紹介】 (株)ニッコー、(株)ロボットシステムズ、トヨタ自動車北海道(株)、 アクセンチュア(株) 【情報提供】「ニーズ発掘からの橋渡し手法と今後の事業展開」 ノーステック財団 「生産性向上に使える！補助金のご紹介」 北海道経済産業局

実地研修	
名 称	自動化・ロボット導入先進地域視察会
開 催 日	2025 年 11 月 17 日～19 日
開 催 場 所	① 北九州市ロボット・DX推進センター（福岡県北九州市） ② (株)安川電機（福岡県北九州市） ③ (株)やまやコミュニケーションズ（福岡県糟屋郡篠栗町）
参 加 者 数	21 名
開 催 内 容	意見交換会、工場見学

イ. 食品メーカー向けの先進事例視察会

名 称	自動化・ロボット先進事例視察バスツアー
開 催 日	2025 年 10 月 21 日
開 催 場 所	① カルビー(株)北海道工場、② (地独)北海道立総合研究機構、 ③ 新栄クリエイト(株)
受 講 者 数	19 名
開 催 内 容	① 工場視察、② 食品ロボット実証ラボ視察、(株)インダによる自動化事例紹介 ③ 協働ロボット操作体験

ウ. 支援機関と SIer 等が連携した省力化支援

支援機関と連携し、道内外の食品メーカー15 社に対して省力化支援を実施した。

エ. 省力化投資を促進するための交流会

食関連技術ビジネスマッチング	
名 称	食×技術で未来を切り拓く
開 催 日	2025 年 11 月 6 日～7 日
開 催 場 所	アクセスサッポロ 1 階 大展示場（ビジネス EXPO 内）
参 加 企 業	① (株)AQSim（札幌市）／陸上養殖 ② SCSK 北海道(株)（札幌市）／食品工場 DX ③ 奥野製菓工業(株)（大阪府）／食品添加剤 ④ (株)テクニカン（神奈川県）／急速冷凍 ⑤ デイブレイク(株)（東京都）／特殊冷凍 ⑥ (株)Bocek（東京都）／生成 AI・業務効率化
開 催 内 容	食関連の高い技術を有する幅広い企業を選定し、消費者の幅広いニーズを相談・商談できる機会を創出。実機展示やデモンストレーション、企業 PR パネル展示等を通してマッチングを行った。

省力化投資促進交流会	
名 称	食品工場の自動化推進マッチングフォーラム
開 催 日	2026 年 2 月 18 日 第一部 講演、事例紹介、事業報告 第二部 展示、交流会
開 催 場 所	アスティホール
参 加 者	来場者 58 名、出展展示者 14 社
出 展 企 業	エプソン販売（株）、SMC（株）、(株)サトー、(地独)北海道立総合研究機構、 紀州技研工業（株）、安川メカトロック末松九機（株）、(株)アイエムパック、 (株)ニッコー、トヨタ自動車北海道（株）、北海道インダ（株）、ニチモウ（株）、 ユニバルス（株）、(株)北海道共創パートナーズ、(株)Real Touch
開 催 内 容	食品メーカー、SIer・機械メーカー、行政機関、支援機関等が交流できる場として省力化投資促進交流会、セミナーを開催。

	<第一部> 【講演】「食品工場の省力化投資を促進させる企業間連携・産学官連携の秘訣」 アドバント(株) 代表取締役社長 岡田 智則 氏 「軟体不定形な牡蠣加工工程でのロボット導入に向けた挑戦」 クニヒロ (株) 執行役員 製造本部 本部長 田中 克幸 氏 「“導入しやすさ” で変わる！ロボットシステムの パッケージ化による菓子箱詰め工程の自動化の実現」 エプソン販売(株) インダストリーソリューション営業五課 課長 山崎 未鈴 氏 米屋(株) 製造部長 渋谷 敦 氏、副部長 立野 三知也 氏 <第二部> ①「出展企業からの自己紹介（1分スピーチ）」 ② 交流会（フリータイム）
--	--

(5) 地域中小企業の人材確保支援等調査事業「食産業（生産性向上に資する人材育成・確保支援）」（経済産業省委託）

道内の基幹産業である食品製造業において、食品工場の自動化を検討・実行していく「生産性向上に資する人材」の育成・確保を進めていくことを目的に、食品工場の自動化や人材戦略の検討方法を学ぶワークショップ、現場診断による実践的な人材育成に取り組んだ。また、自動化の魅力・やりがいなどを発信するセミナーを開催し、当該分野における人材の掘り起こしと定着を目指した。

ア. 食品メーカー向けのワークショップ

製造現場で働く社員や管理者等を対象に、人材活用ガイドラインの考え方を前提に、自動化・省力化等を検討するために必要な知識・ポイント等の習得を狙った実践的な研修を実施した。

名 称	食品工場の自動化人材ワークショップ
開 催 日	2025 年 7 月 15 日
開 催 場 所	TKP 札幌駅カンファレンスセンター
受 講 者 数	19 名
開 催 内 容	【講演】「食品工場における自動化検討のポイントと自動化人材の育成」 RobotsTown(株) 代表取締役社長 白坂 紳滋 氏 「これからの時代に求められる新しいマネジメントの視点 ～人材活用ガイドラインを活かした新しい人材育成・確保～」 (株)フォーバル 北海道・東北カンパニー F-Japan 推進部 副部長 山本 裕介 氏 【グループディスカッション】

イ. 食品工場での現場診断

道央・道南圏に工場が所在する 5 社に対して実施した。

ウ. 中小食品製造業の魅力発信セミナー

名 称	食品工場って、こんなに面白い！未来をつくる仕事の魅力発見セミナー
開 催 日	2025 年 11 月 28 日
開 催 場 所	EZOHUB SAPPORO HIGUMAHALL
参 加 者	121 名（会場：36 名、オンライン：85 名）

開催内容	【講演】「老舗菓子メーカーの挑戦と成長を支える設備投資」 千秋庵製菓(株) 代表取締役社長 中西 克彦 氏 「機械やロボットと人が協働する未来の食品現場に必要な人材とは」 Robots Town(株) 代表取締役社長 白坂 紳滋 氏 【講師陣によるトークセッション】 「働きたい・やめない・育つ・誇れる食品工場をつくるには」
------	---

(6) 地域企業の先端技術人材確保・育成等支援事業（北海道補助）

北海道経済の発展を加速するため、7 圏域（旭川、帯広、釧路、北見、苫小牧、室蘭、函館）の産業支援機関と連携し、道内製造業における IoT、ロボティクス等の先端技術を有する人材の確保、育成及び職場定着の促進による生産性向上や人手不足の改善を図った。

ア. デジタル化推進セミナー

開催日	2026 年 2 月 24 日
開催場所	ACU 1606 号室
受講者数	44 名
開催内容	「道内製造業のためのロボット化推進セミナー」 【講演】「若手中心の内製人材で進める協働ロボット活用の取組み」 (株)有川製作所 代表取締役 有川 富貴 氏 「協働ロボットを用いた糊付け作業の自動化の取組み」 モリタ(株) 代表取締役社長 近藤 篤祐 氏 【話題提供】「室蘭市におけるロボット導入促進に向けた取組み」 太平電気(株) 代表取締役社長 松見 哲也 氏 (公財)室蘭テクノセンター 企業支援課 主幹 刈屋 晴子 氏

イ. 専門人材育成研修

日程	テーマ／受講者数	講師
2025 年 5 月 28 日 【札幌市】	ロボット活用人材育成講座 ／受講者：42 名	①経済産業省製造産業局産業機械課ロボット政策室 室長 石曾根 智昭 氏 ②インテグリアル(株) 代表取締役 永田 記章 氏 ③牛乳石鹸共進社(株) 製造部 課長代理 阿部 起也 氏 ④(地独)北海道立総合研究機構工業試験場 産業システム部 主査 井川 久 氏
2025 年 10 月 16 日 【小樽市】	デジタル活用人材育成講座 ／受講者：35 名	①BLUESHEEP(株) 代表取締役 杉本 英範 氏 ②(株)インターパーク代表取締役 CEO 船越 裕勝 氏 ③(地独)北海道立総合研究機構工業試験場 産業システム部 宮島 沙織 氏 ④(株)北海道共創パートナーズ 十文字 紳伍 氏
2025 年 10 月 28 日 【旭川市】	ロボット活用人材育成講座 ／受講者：27 名	①新栄クリエイト(株) ②(地独)北海道立総合研究機構工業試験場 ヒューマンテクノロジー部 安田 星季 氏 ③(地独)北海道立総合研究機構工業試験場 産業システム部 伊藤 壮生 氏
2025 年 11 月 25 日 【苫小牧市】	先進工場視察研修会 ／受講者：21 名	トヨタ自動車北海道(株)
2026 年 2 月 13 日 【釧路市】	ロボット活用人材育成講座 ／受講者：47 名	①新栄クリエイト(株) ②(地独)北海道立総合研究機構工業試験場 ヒューマンテクノロジー部 安田 星季 氏

(7) ものづくり産業におけるグリーン・デジタル推進事業（北海道委託）

「ゼロカーボン北海道」や「Society5.0 推進計画」に対応し、道内ものづくり企業の脱炭素・DX 推進による生産性向上及び競争力強化を図るため、セミナー・相談会の開催、企業への専門家派遣やマッチングを実施した。

ア. 脱炭素・DX 推進セミナー・相談会

名 称	製造業向け 脱炭素&DX 推進 セミナー・相談会 in 室蘭
開 催 日	2025 年 9 月 11 日
開 催 場 所	中嶋神社蓬峯殿 黎明の間
受 講 者 数	55 名(会場 37 名・オンライン 18 名)、相談会参加 5 社
開 催 内 容	【講演】「省エネ診断から見える『製造業で取り組むべき削減ポイント』」 北海道電力(株) 野川 貴史 氏 「CO₂削減計画のポイント」 (一社)環境エネルギー事業協会 代表理事 植杉 昌敏 氏 「企業が取り組む DX の第一歩について」 (株)フォーバル 北海道・東北カンパニー F-JAPAN 北海道支部 統括長 野家 真一 氏 「DX・GX で重要となる製造現場の設備保全について」 (株)KAMAMESHI 代表取締役社長 小林 俊 氏 【話題提供】 北海道電力(株)室蘭支社、(公財)室蘭テクノセンター、ノーステック財団 【相談会】 セミナー会場内に相談ブースを設置し、講師を相談員として質問・相談の受付及び意見交換を実施した。

イ. 専門家派遣

脱炭素やデジタル化に意欲的に取り組もうとするものづくり企業 7 社に対し、合計 13 回の専門家派遣を行い、生産性向上や製品開発を支援した。

ウ. 食品製造事業者とのものづくり企業のマッチング

「食」分野への道内ものづくり企業の参入を促進するため、食品製造企業と食関連械商社とのマッチング（展示会）を実施した。

開 催 日	2025 年 11 月 6 日～7 日
開 催 場 所	アクセスサッポロ 1 階 大展示場（ビジネス EXPO 内）
参加ものづくり企業	(株)アイエムバック(札幌市)、(株)⑤ASCe(札幌市)、桑原電工(株)(北見市)、新栄クリエイト(株)(札幌市)、太平電気(株)(室蘭市)、(株)ニッコー(釧路市)、モリタ(株)(札幌市)、(株)ロボットシステムズ(上砂川町)
商談件数	446 件(各ブースの延べ来訪件数)

また、道北圏、十勝圏及び道南圏等に所在する食品製造企業の工場に直接訪問し、ニーズ把握を行う工場視察を伴う個別マッチングを 4 回実施した（参加企業：ものづくり企業延べ 7 社、食品製造企業延べ 7 社）。

(8) ものづくり企業ロボット導入モデル事業（札幌市補助）

中小企業者等におけるロボット導入を通じた省人化のモデルケースを創出し、人手不足の解消を図るため、札幌市内の製造業及び建設業の中小企業者に対し支援を行った。

ものづくり企業ロボット導入モデル補助金

補助限度額（補助率）	対象分野	応募件数	採択件数	補助金額
補助限度額：500 万円／件 （補助率：2/3 以内）	製造業、建設業	1	1	5,000 千円

<採択テーマ>1件（札幌市内企業）

No	テーマ名	企業名
1	協働ロボットを用いた組立工程における糊付け作業の自動ロボットシステムの構築	モリタ(株)

(9) グリーン・デジタル推進事業（自主）

「北海道 DX 推進協働体」のネットワークを活用し、道内製造業の生産性向上に資する取り組みを行った。

ア．北海道 DX 推進協働体連絡会議の開催

協働体参画機関と DX 推進の各種取り組みの情報共有、意見交換を目的に、「北海道 DX 推進協働体」連絡会議を開催した。

開催日	2025 年 6 月 26 日
開催場所	札幌第 1 合同庁舎
出席者数	40 名（オンライン参加含む）
議題	①2024 年度取り組み状況と 2025 年度実施計画について（ノーステック財団） ②各機関の DX 支援の取り組みについて話題提供

イ．伴走型支援

道内企業 5 社に対し専門家チームを派遣し、サイバーセキュリティ対策の強化、生産性向上やビジネスモデル変革の実現に向けて、DX 戦略策定等の伴走型支援を実施した。支援を通じ、2 社が「DX 認定」の取得に至った。

<クラスター形成に向けた地域の仕組みづくり>

(10) 地域産業クラスターものづくり支援事業（自主）

ア．HOFOO プロジェクトの周知と利活用状況

企画段階から商品開発・販路拡大までを一貫して幅広く伴走支援する「HOFOO プロジェクト」について、全道各地の振興局やフード塾等を通じた周知活動を継続的に実施した結果、2025 年度の補助金事業に対する申請数は過去最多の 53 件に達しており、HOFOO プロジェクトの認知度は着実に拡大しつつある。

	採択予定枠	申請数	採択数	商品化
2024 年度	20 件	46 件	20 件	20 件
2025 年度	20 件	53 件	20 件	16 件

イ．支援事業の採択概要

地域の「強み」や「特色」を活かし、地域の活性化につながるプロジェクトについて、採択予定上限枠の 20 件（全道 9 振興局・13 市町村にわたる幅広い地域案件）を採択し、その後事業者の都合により 4 件の辞退があったが、専門家派遣も含めた商品開発に向けた伴走支援を行い、すべてのプロジェクトで商品化を実現した。

<2025 年度「HOFOO プロジェクト」採択事業一覧>

No.	地域	事業者	件名【開発商品名】
1	滝川市	いちさか	はるゆたかクッキー ホワイトチョコバターサンド
2	札幌市	(株)エルシックス	巡り、整う。北海道乳酸菌発酵クラフトコーラ
3	札幌市	べじふるぱれっと	PICKLES GELEE(ピクルスジュレ)
4	札幌市	(一社)ハートキッズライフリンク	嚥下調整食(トマトの赤カレー、かぼちゃのチーズポタージュ)
5	札幌市	(有)敬天キムラ	ENERGY KEEPER
6	小樽市	和弘食品(株)	北海道アロニアソース
7	日高町	日高町観光まちづくり協会	日高サラブレッドサブレ
8	様似町	まんまのまんま	トレイルフード(ジビエカレー、シーフードカレー)
9	七飯町	(一社)七飯町振興公社	ななシュー
10	旭川市	(株)IMO ベーシオン	北海道の森が薫る 燻製干芋
11	西興部村	ミルクデザイン(株)	ハスカップアイス
12	興部町	ノースプレインファーム(株)	ペットフード(フローズンヨーグルト、さけるチーズ)
13	陸別町	種を育てる研究所	魔女のひと匙
14	士幌町	(株)atLOCAL	北海黄金のフライドポテト
15	音更町	とかちフルーツビレッジ	とかちももフルーツソース Premium
16	釧路市	(一社)音別ふき蒔団	ミルフキー

ウ. 各フェーズに応じた的確な支援

地域の一次産品を活用した高付加価値商品の開発に向け、企画・開発・販売の各フェーズの課題に応じた的確な助言・指導および専門家派遣によるサポートを行った。

	商品企画	- 各振興局等と連携した周知活動、商品企画勉強会の開催(42 事業者参加) - 商品化開発等に必要の連携企業のコーディネート
	商品開発	- HOFOO 補助金による支援(上限 500 千円、補助率 2/3) - 商品化に向けた勉強会(10 事業者参加) - ビジネス EXPO でのテスト販売・アンケートの実施
	販路開拓・拡大	- HOFOO 商談会の開催(2/24 開催、来場 132 名) - 商談会への出展支援 (北洋銀行インフォメーションバザール、FOODEX JAPAN) - 販売イベントの開催 (HTB 創世マルシェとの連携、大丸百貨店との連携)
	各フェーズ共通	各段階における事業者の課題に応じた専門家派遣

(11) 食品産業クラスターの形成支援(自主)

道産さつまいもをテーマに新たな産業に育てることを目指して推進している「さつまいも北海道プロジェクト(SHP)」において、生産・加工・製造・販売のサプライチェーン形成に向けて、ネットワークを最大限活用しながら、需要喚起に向けた各種イベントの開催や道産品に適した加工事業者の育成に向けたものづくり支援などを実施した。

ア．ネットワークの構築

第4回・第5回交流会を開催し、栽培技術や成分分析の中間報告を実施したほか、関係者間の課題共有と解決に向けた協議を行った。

SHPの賛同メンバーは2026年3月末現在で235名（製造・サービス・支援機関等）まで拡大した。

イ．需要喚起

「あさひかわ菓子博（2025年5-6月）」でのステージイベント、「STV どさんこパーク（2025年6月）」での店頭販売、「スイーツガーデン SAPPORO（2025年8月）」との連携など、幅広く消費者向けイベントを実施し、道産さつまいもの知名度向上を図った。

ウ．ものづくり支援

道内外25地域のさつまいも成分について食味・成分等の分析を実施したほか、加熱水蒸気焼成機によるペースト製造に向けた1次加工事業者の探索や育成に向けた技術支援を実施した。

(12) 小規模事業者に対する販路拡大支援事業（経産省補助）

「HOFOO」及び「さつまいも」の両プロジェクトにおいて、販路開拓・拡大の支援強化を図るため、経済産業省「小規模事業者持続化補助金（共同・協業型）」を活用し、これまでのHOFOO発表会を「HOFOO商談会」として充実を図るとともに、国際的な商談会「FOODEX JAPAN」へ出展した。

ア．HOFOO商談会の開催（2026年2月）

2025年度のHOFOO補助金で採択した16事業者を対象に、開発商品の発表と商談の場として開催した。地元自治体の首長等を招へいし、応援メッセージをいただくなど自治体との連携を強化しながら、バイヤー招待先の拡大を図り、過去最多となる51名のバイヤーが来場するなど、商談機能を強化した。また事業者と開発商品のPR動画の制作やバイヤー向けオンライン配信などにより、発信力の強化を図り、商談発展数54件、うち商談の成約（見込み含む）9件の成果を得た。

イ．FOODEX JAPAN 2026 への出展（2026年3月）

HOFOO補助金採択者（過年度採択者を含む）やさつまいも北海道プロジェクトの参画メンバー24事業者を対象に、「極上北海道」と銘打った一体的ブースで共同出展した。出展にあたって商談力の強化に向けた勉強会を開催するとともに、開催期間中は通訳4名の配置やパンフレット制作などの対応により、約7万4千人の来場者に対し1,098件の商談を行い、うち38件が成約（見込み含む）に至るなど、海外も含めた多様な販路開拓を促進した。

4. 持続可能で強靱な北海道産業の創出

道内半導体産業の成長を支える人材育成をはじめ、未来志向の産業基盤の創出に取り組み、持続可能な北海道産業の形成を推進した。

<未来を見据えた産業創出>

(1) 未来創造事業（LSTC 委託、NX 総研委託、北海道委託、自主）

ア. ゼロカーボン社会に向けた調査・実証事業

a. 北大キャンパスをフィールドとするゼロカーボン実証

ゼロカーボン北海道に向けた実証モデルを構築し、そのモデルの全道展開を図っていくことを目標に、電気と熱の統合制御（EMS）の開発と北大キャンパスをフィールドとした実証試験の実施に向けた検討を行った。

b. 道内自動運転の通年走行に向けた取り組み

労働力不足などから身近な生活交通手段の不足が深刻化しており、地域の経済活動や日常生活を支える地域交通の安定的・継続的な確保が急務となっている。この問題を解決するため、自動運転普及のための課題調査等を行った。具体的には、視界不良時（悪天候、積雪時等）における道路状況の正確な把握に向け、北大モニタリングシステムを自動運転バスに搭載し、データの集積を行うとともに、ビジネス EXPO 内に「地域と共創するスマートモビリティ ブース」および「地域交通を変革する、自動運転の力 ブース」を設け、道内自動運転実証の取組紹介を行う展示を行った。

ビジネス EXPO での展示

開催日	2025 年 11 月 6 日～7 日
開催場所	アクセスサッポロ 大展示場 屋外展示会場
出展者	千歳市、A-drive (株)、NTTドコモビジネス(株)、(株)東海理化、(株)マクニカ
来場者数	2 日間の合計：21,632 人

イ. 先端半導体人材育成推進事業

2023 年度に発足した「北海道半導体人材育成等推進協議会」に参画する教育機関および半導体関連企業のニーズ等に基づき、以下のような半導体人材の育成と関連産業の取引活性化に向けた取組を行った。

a. 地域コンソーシアムにおける半導体人材の育成等に係る方策検討

2023 年度および 2024 年度に実施した調査によって確認された 2030 年度の半導体人材の需給ギャップの解消に向けて、産業界、教育機関、行政機関等（76 機関）で構成する「北海道半導体人材育成等推進協議会本会議」を 2 回開催し、半導体人材の育成等に係る方策検討や中長期方針（ロードマップ）に関する合意形成を進めた。本会議終了後には産学官の関係構築のための交流会も開催した。

b. 半導体人材の需要と供給に関する調査結果を踏まえ、需要と供給のギャップを解消するための方策検討

これまで実施した調査によって確認された需給ギャップを解消すべく、人材育成・確保に関する方針を議論する従来の本会議に加えて、新たに産学関係者が具体的施策を議論する場として「半導体人材育成ミニWG」を設置し、2回開催した。

c. 人材育成に向けた産学連携のための事業

・実務者による出前講座の開催（38 コマ）

道内工学系教育機関のニーズに基づき、以下の通り出前講義を開催した。

日時	教育機関	対象	派遣企業	内容
6月2日	北海学園大学	工学部3年	ノーステック財団	半導体製造プロセス
6月18日	室蘭工業大学	システム理化学科 2年	(株)産業タイムズ社	半導体概論
6月25日	室蘭工業大学	システム理化学科 2年	ノーステック財団	前工程
6月25日	室蘭工業大学	システム理化学科 2年	ノーステック財団	後工程
6月25日	苫小牧高専	全専門系3年	(株)産業タイムズ社	半導体の基礎
7月2日	苫小牧高専	全専門系3年	ミツミ電機(株)	前工程
7月9日	苫小牧高専	全専門系3年	(株)DNP	半導体設計
7月15日	北海学園大学	電子情報工学科 1 年	(株)産業タイムズ社	半導体の基礎
7月16日	室蘭工業大学	システム理化学科 2年	(株)産業タイムズ社	半導体概論
7月16日	苫小牧高専	全専門系3年	DXPS(株)	光半導体
7月23日	室蘭工業大学	システム理化学科 2年	ノーステック財団	前工程
7月23日	室蘭工業大学	システム理化学科 2年	ノーステック財団	後工程
7月25日	旭川高専	専攻科	メイビスデザイン (株)	エッジ AI
8月1日	旭川高専	専攻科	メイビスデザイン (株)	エッジ AI
8月4日	北海道教育委員会	道内工業高校教諭	(株)産業タイムズ社	半導体概論
			北海道大学	クリーンルーム等の研究設備について
8月6日	北海道教育委員会	道内工業高校教諭	北海道経産局	北海道の半導体産業
			ノーステック財団	前工程
			ノーステック財団	後工程
9月14日	-	小学生（稚内市）	ノーステック財団	半導体とは
9月30日	北海道大学	工学部4年	メイビスデザイン (株)	エッジ AI
10月3日	北海道大学	情報科学院	JEITA	半導体産業の現状
10月6日	道内4高専合同	本科1年	ノーステック財団	前工程
10月14日	北見工大	先端材料コース 2 年	(株)SUMCO	半導体材料
			ノーステック財団	半導体概論
11月5日	札幌市立北9条小	小学生	広島大学 Rapidus(株) 千歳市	半導体産業
	伊達市立大滝徳舜警小			
	釧路市立青葉小			
12月2日 ～ 2月3日	旭川高専	本科4年	ノーステック財団、 (株)SUMCO、セイコー エプソン(株)、 DXPS(株)、(株)日立ハ イテク	半導体製造プロセスなど

12月15日	旭川高専	電気情報工学科 (全学年)、教員	Rapidus(株)、ASML、 AMAT、ラムリサーチ	キャリアデザイン
1月10日	-	小学生(美唄市)	ノーステック財団	半導体とは
1月28日	室蘭工業大学	創造工学科2年 システム理化学科 2年	Rapidus(株)	キャリアデザイン
1月28日	北見工業大学	先端材料コース2 年	DXPS(株)	光半導体

d. 教員・学生向け企業見学会の開催

学生の半導体企業に対する関心喚起のため、教員および学生を対象とした見学会を以下の通り開催した。

日時	見学先	参加者
7月31日	ミツミ電機(株)千歳事業所	北海道科学大学教員(25名)
8月5日	ミツミ電機(株)千歳事業所	道内工業高校教諭(10校)
	Rapidus(株)IIM-1	
8月26日	(株)SUMCO千歳工場	室蘭工業大学(6名) 北見工業大学(2名) 釧路高専(2名)
	ミツミ電機(株)千歳事業所	
9月5日	ユニマイクロンジャパン(株)	北海道サイバークリエイターズ大学校(7名)
9月19日	ユニマイクロンジャパン(株)	日本工学院北海道専門学校(12名)
9月29日	(株)SUMCO千歳工場	北見工業大学 学生(12名)、教員(2名)
	DXPS(株)恵庭事業所	
10月17日	ミツミ電機(株)千歳事業所	北海道大学(45名)
	Rapidus(株)IIM-1	
11月13日	(株)デンソー北海道	苫小牧高専(45名)
11月25日	Rapidus(株)IIM-1	教員(北海道大学、室蘭工業大学、北見工業大学、北海道科学大学、千歳科学技術大学、旭川高専、釧路高専)(20名)
12月15日	(株)FJコンボジット	エレクトロニクス実装学会教員・大学院生(30名)
3月5日	ラムリサーチ(同)	旭川高専(10名)
	DXPS(株)恵庭事業所	

e. 企業・学生の交流事業(ビジネス EXPO の出展)

ビジネス EXPO 内に「北海道半導体産業ブース」を設け、道内半導体関連企業6社の取組紹介を行う展示を行った。また道内の大学、高専、工業高校計8校から学生818名を招待し、企業ブースを見学するとともに、学生向けの企業説明会も実施した。

開催日	2025年11月6日(木)～7日(金)
開催場所	アクセスサッポロ
出展企業(6社)	ミツミ電機(株)、新光商事 LSI デザインセンター(株)、Rapidus(株)、DXPS(株)、メイビスデザイン(株)、(株)SUMCO
参加教育機関	札幌工業高校、琴似工業高校、小樽未来創造高校、旭川工業高校、滝川工業高校、苫小牧工業高校、室蘭工業高校、旭川高専、苫小牧高専、北海道科学大学、札幌市立大学など
来場者数	2日間の合計：21,632人

f. インターンシップ強化に向けた取組み

道内半導体関連企業の多くは、学生たちへの認知度向上が課題となっている。そこで道内半導体関連企業11社のインターンシップ募集要項をとりまとめて、道内教育機関へ周

知し、学生の参加を促した。

g. 半導体関連企業・道内企業「マッチング商談会」の開催

(株)デンソー北海道を発注企業とした「道内企業ビジネスマッチング」を開催し、提案企業 31 社から 49 件の提案があり、14 商談を実施した。また提案企業の発掘およびマッチング精度の向上に向け、事前に「発注企業によるニーズ説明会」および「エントリーシート記入講座」も開催した。

開催日	2026 年 1 月 26 日 (月)、14:00～17:00
開催場所	千歳アルカディア・プラザ
発注企業 (1 社)	(株)デンソー北海道
商談企業 (14 社)	(株)キメラ、メテック(株)、京西テクノス(株)、トライアロー(株)など
商談件数	14 商談 (14 社)

h. 本会議の開催

本事業を適切かつ効果的に推進し、その成果を取りまとめることを目的として、「北海道半導体人材育成等推進協議会本会議」を 2 回開催した (6 月・3 月)。

i. 自走化に向けた検討

本事業の継続推進に向けて、教育界 (大学・高専)、半導体企業、自治体等の各構成機関と意見交換・検討を積極的に行っている。また、産業界と教育機関が、実務家教員派遣や企業見学会の実施に向けて直接コミュニケーションを取ることができるポータルサイトを構築することで、事務局を介することなく、産学が自律的にコミュニケーションを取っていくことができる環境整備を進めている。

ウ. 半導体産学官ネットワーク構築・強化事業

北海道半導体・デジタル関連産業振興ビジョンで目指している道内の半導体エコシステム(ネットワーク)構築に向けて、稚内市および美唄市を対象エリアとして、各エリアでの産・学・官のネットワーク構築を目指した。美唄市エリアにおいては、市民の半導体への関心・理解度向上を目的としたセミナーを開催した(北海道大学情報科学研究院山下准教授による講演など)。

<基盤技術創出支援>

(2) 幌延地圏環境研究事業 (経済産業省補助、幌延町補助、共同研究)

ア. 研究実施内容

幌延地圏環境研究所 (以下、「H-RISE」という。)は、(国研)日本原子力研究開発機構幌延深地層研究センター (以下、「JAEA 幌延 URL」という。)と周辺地域の地下環境を研究対象とし、第 3 期長期研究計画に基づき「地下バイオメタン生産法 (SCG 法) の確立」、「地下微生物の探索 (ライブラリー化)」、「地下環境特性の解明・資源探索 (ヨウ素など)」に向けた研究を 2021～2028 年度にて展開している。

H-RISE が提案した SCG 法 (Subsurface Cultivation and Gasification ; バイオメタン鉱床造成/生産法) の実用化に向けては、UBE 三菱セメント(株) との共同研究により同社が所有する天北炭鉱小石露天坑 (猿払村小石地区) での原位置試験を 2019 年度より実施している。

2025 年度は、新規に導入した安定同位体比質量分析計により、小石原位置試験において注入した CO_2 のバイオメタン化を実証するとともに、バイオメタン生成プロセス解明に向けたリアクター試験にて溶液の鮮度の重要性が推察された。また、採取した地下水中の遺伝子の解析にて CO_2 をメタン化するメタン菌を確認することができた。

a. 地下微生物環境研究グループ

＜バイオメタン生成・微生物探索関連＞

2025 年度は、原位置試験において重水添加 $^{13}\text{CO}_2$ 溶液を H30-6 孔および 2022-M 孔に注入した。溶液注入後に地下環境が酸化性的になることでメタン菌の存在度ならびにメタン代謝経路の発現が減少したことが確認された。一方で、芳香族分解系・窒素代謝系・硫黄代謝系の発現が溶液注入後に増加したことから、有機物分解と無機電子受容体利用を伴う代謝が相対的に優勢化した可能性も示された。溶液注入直後に有機物分解系の代謝発現が増加することで、メタン菌が利用できる基質が増加したことが注入した二酸化炭素のバイオメタン化につながっていると考えられる。

＜新規有用微生物探索関連＞

メタン菌と真核生物の相互作用に注目した研究においては、メタン生成に関わる新規の真核生物の探索を実施した。H30-4 孔地下水のショットガンメタゲノム解析から数種の真核生物の DNA 配列が検出された。

メタン生成に関わる微生物の探索では、23 種類の基質を用い集積培養を実施した。基質濃度 0.5 mM で集積培養を開始し、徐々に基質濃度を高め、2026 年 3 月時点では基質濃度 10 mM での集積培養を実施中である。

b. 地下水環境研究グループ

＜バイオメタン生成関連＞

2025 年度は、原位置試験において重水(D_2O)を添加した ^{13}C に富む二酸化炭素溶液を H30-6 孔および 2022-M 孔に注入した。H30-6 孔では、注入後速やかにメタンの炭素同位体比($\delta^{13}\text{C}(\text{CH}_4)$)や水素同位体比($\delta\text{D}(\text{CH}_4)$)の上昇が認められ、注入された二酸化炭素のバイオメタン化が示唆された。

二酸化炭素のバイオメタン化の室内検証試験 (リアクター試験) では、一部の試験系においてメタン生成速度の鈍化が観察されたが、容器内の地下水を新鮮な地下水に交換することにより、メタン生成速度が再び回復することが確認された。

＜ヨウ素の起源 (濃集メカニズム) 関連＞

2025 年度は、幌延町浜里地域の高ヨウ素地下水と対応する岩石中のヨウ素の存在形態と同位体挙動を解析した。その結果、岩石中のヨウ素濃度は地下水と対応して増加し、両者の相互作用による供給・再分配が示唆された。存在形態別のヨウ素は主に

有機物態および酸化物態として保持された。しかし、同位体比 ($^{129}\text{I}/^{127}\text{I}$) は水溶性画分ほど高く、地表起源の影響を反映する可能性が示唆された。一方、有機物態などは低い同位体比を示し、堆積時由来の古いヨウ素を保持していると考えられた。

c. 堆積岩特性研究グループ

＜小石原位置試験サイトの維持管理および地下水流動特性の調査＞

2025 年度は、小石原位置試験サイトにおいて現場環境整備を実施し、2022-L・M・U 孔の囲い老朽化への対応および 2022-M 孔での注入試験時の作業性向上を目的としてガレージを設置した。併せて進入路補修や屋根設置、雪対策を行い、観測体制を強化した。

水位計測は 2019 年度より継続しており、2024 年 10 月～2025 年 10 月の全水頭データから、融雪期 (3～5 月) に 2022-L 孔を除く各孔で水位上昇が確認され、特に 30-5 孔は降雨・融雪の影響を受けやすい傾向を示した。

CO₂溶液注入試験は 2025 年 6 月 (30-6 孔) および 8 月 (2022-M 孔) に実施した。30-6 孔への注入試験では既往と同様に観測孔での水頭上昇と停止後の速やかな低下が確認され、再現性の高さが示唆された。一方、2022-M 孔への注入試験では流量増加後に水頭が不安定となり、地下水流速の増加や水位の相対順位の変化が認められた。検討した結果、新たに水みちが形成されたことで注入液が石炭層に到達しなかったことが示唆され、今後は 2022-M 孔への注入は行わない事とした。

イ. 研究成果の公表等

2025 年度の研究成果は、論文 3 編 (うち 2 編査読中)、学会発表 2 編で内訳は以下のとおりである。また、日本温泉科学会第 78 回大会において、論文名「北海道における高濃度ヨウ素温泉の地球化学的・微生物学的特徴と成因 (村上ほか, 2021)」が大山賞を受賞 (2025 年 9 月 4 日) した。

＜研究成果公表の状況＞

研究グループ	論文	学会発表
地下微生物環境研究グループ	1 編	—
地下水環境研究グループ	2 編 (査読中 2 編)	2 編 (国内 : 2 編)

ウ. 運営委員会及び研究部会等の開催状況

H-RISE の運営にあたり、地元幌延町をはじめ、関係機関との連携推進・連絡調整の場として、幌延地圏環境研究事業における、運営委員会を開催した。さらに、研究活動への助言・指導の場としての研究部会を開催するとともに、JAEA との情報交換を兼ねた研究交流会などを開催した。

＜研究部会＞

開 催 日	2025 年 9 月 5 日
場 所	ホテルマイステイズ札幌アスペン

＜運営委員会＞

開 催 日	2026 年 2 月 20 日
場 所	ホテルマイステイズ札幌アスペン

<JAEA との研究交流会>

開催日	2025 年 12 月 4 日
場所	JAEA 幌延深地層研究センター 国際交流施設

エ. 情報発信

広報活動の一環として、以下の講演会、科学イベント、展示会、講師派遣などを通じ情報発信に取り組んだ。

<外部講演会での発表>

イベント名	開催日	備考
CO ₂ 地下貯留情報交換会	2025 年 7 月 1 日	場所：ノーステック財団大会議室 参加団体：釧路コールマイン(株)、三笠市、室蘭工業大学、ノーステック財団 発表内容：褐炭層のバイオメタン化に向けた幌延地圏環境研究所の取り組み 出席者：22 名

<科学イベント、展示会>

イベント名	開催日	開催場所
おもしろ科学館 2025 in ほろのべ	2025 年 7 月 26 日～27 日	幌延町総合体育館
39 th 北海道 技術・ビジネス交流会 (ビジネス EXPO)	2025 年 11 月 6 日～7 日	アクセスサッポロ (札幌市)

<講演会の開催>

開催日	2025 年 6 月 23 日
開催場所	幌延地圏環境研究所 会議室
参加者数	参加者：22 名
開催内容	【講師】 室蘭工業大学大学院工学研究科 特任教授 板倉賢一 氏 【演題】 「ハイブリッド石炭地下ガス化によるブルー水素製造－三笠プロジェクト」

<講演会の開催>

開催日	2025 年 12 月 4 日
開催場所	JAEA 幌延深地層研究センター 国際交流施設 (幌延町)
参加者数	参加者：20 名
開催内容	【講師】 元福岡大学助教 鮎沢 潤 氏 【演題】 「石炭地質と二酸化炭素貯留技術研究の接点」

<見学者受入れ>

JAEA 深地層研究施設及び幌延町周辺の地圏環境を活用した研究事業への理解を深めるため、2025 年度は全国から 8 団体 67 名の見学者を受入れ、概要説明と所内見学会を実施した。

このうち、JAEA 幌延 URL と H-RISE の両方を見学された 5 団体 52 名の方々にアンケート調査を実施した。結果は、認知度に関し、JAEA 幌延 URL は「以前から知っていた」が、H-RISE は「今回の見学で初めて知った」という方が多く H-RISE の認知度は低かった。

一方、H-RISE の研究について「興味深い研究だと感じた」という方が多く、当研究所を見学したことで「幌延深地層研究センターの理解が深まった」と回答された方も多く、深地層研究施設の理解促進という役割を果たしていることが確認できた。

5. 地域×テクノロジーを支える共創基盤の構築

地域課題解決に向けたプロジェクト創出やスタートアップ創出に向けた支援を道内の産学官金と連携して実践することにより、自律的かつ持続可能なイノベーション創出に向けた仕組みづくりを推進した。

<地域課題を解決する産学官連携イノベーション創出プラットフォームの構築>

(1) 産学融合拠点創出事業「チャレンジフィールド北海道」(経済産業省補助、自主)

北海道内の大学・国立研究機関が培ってきた技術や知見を活用し、地域が抱える多様な課題の解決を図る産学融合拠点の創出を目的とし、「将来世代のために、共感と共創でつながる、希望あふれる北海道の創生」をビジョンに掲げ、①地域課題解決支援、②スタートアップ創出支援、③産学連携人材の育成、の3つの取組みを推進した。

ア. 地域課題解決支援

	活動・実行	
マテリアリティ	推進計画	実証プロジェクト等
1. 「産業競争力」農林水産業やものづくり産業の競争力の向上	道内広葉樹の資源管理と効率的活用を目指したDX推進(産連CD 三枝昌弘)	酪農DXプロジェクト 林業課題SWG 水産業課題SWG 地域医療課題SWG
	道内産木材の有効活用・付加価値向上を可能にするシームレスなDXの導入(産連CD 奥野拓)	
	デジタル技術を用いた農業および環境モニタリング技術の革新(産連CD 高橋俊彦)	
2. 「食資源」食資源の高付加価値化と持続的な食料供給	農・畜・水産融合型資源活用システムの構築(産連CD 東陽介)	
	北海道天然資源の利活用による新産業の構築(産連CD 吉成哲)	

上表で挙げた2つの重点課題(マテリアリティ)を中心に、5つの「推進計画」と4つの「実証プロジェクト・サブワーキンググループ」について、道内大学をはじめとする研究機関等のシーズを起点とした事業を、事務局コーディネーターと各地域の大学等の14人の産学融合コーディネーターが連携し推進した。

ア. F/S調査の実施

以下のF/S調査支援型を実施し、各推進計画の取組を加速させた。

年度	参画機関	プロジェクト名と概要
2025	北見工業大学、北海道、鶴居村森林組合、王子ホールディングス	広葉樹の樹皮画像を活用した樹種判定アプリケーションの可能性検証 【概要】 本F/S調査では、広葉樹の樹皮画像を用いた樹種判定アプリの可能性を検証した。北海道内で収集した約11,000枚の画像分析により、取得地域の違いが判定精度に影響することを確認し、地域特性を反映したデータ整備の重要性を明らかにした。また、スマートフォン画像による簡易計測や運用方法共有の有効性を現地検証で確認した。

年度	参画機関	プロジェクト名と概要
2025	帯広畜産大学、北海道文教大学、企業A、漁業協同組合	北海道における農・畜・水産未利用資源の循環活用を目指した発酵技術による飼料・肥料・食品開発 【概要】帯広畜産大学の乳酸菌・酵母による発酵技術を核に、農・畜・水産の未利用資源を循環活用する生産ネットワーク形成を目指し F/S 調査を実施。海藻では原料状態が品質に影響することを確認し、漁協と連携した小規模生産を開始。おからは細菌叢制御や食品応用（レシピ開発）を進展させ、イソフラボンの機能性向上も確認。酒粕では脂質成分増強条件を見出した。あわせて、産学官金の情報共有を通じ、生産ネットワーク形成に向けた連携強化を図った。

b. 新規プロジェクトの構築

本事業において予算計上可能な F/S 調査は、推進計画における実証試験に関するものに限られているため、これに該当しない大学シーズ起点の取組や、地域課題起点のプロジェクト等の萌芽的な取組を、自主財源により支援を実施した。本年度は事務局コーディネーターが大学などの各参画機関へのヒアリング、地域課題、産業分野での課題に基づいた 5 件の申請の中から以下の 3 件を採択した。

年度	参画機関	プロジェクト名と概要
2025	三笠市、室蘭工業大学	木質バイオマス燃焼灰を CO ₂ 固定材として利用するための研究（地域課題） 【概要】三笠市の CO ₂ 実質ゼロに向け、木質バイオマス燃焼灰を活用した低コスト CO ₂ 固定スラリー材を開発。CO ₂ マイクロバブル水との反応で安定した鉱物化・固化を確認し、配合条件を明確化した。重金属溶出も評価し、六価クロムは還元処理で無害化可能と判明。環境安全性と CO ₂ 固定を両立する資材の実用性を示した。

年度	参画機関	プロジェクト名と概要
2025	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所、小林製薬、北海道大学	切り花兼用による薬用シヤクヤクの高収益化と国内生産の拡大（地域課題） 【概要】漢方薬需要の拡大と生薬自給率向上を背景に、名寄市で切り花兼用型薬用シヤクヤクの作出基盤を整備した。栽培試験により花茎複数本採取でも根収量低下がないことを確認し、総収益が従来比 5 倍となる可能性を示した。あわせて実証栽培や数値モデルによる花形 3D 化を進めた。

年度	参画機関	プロジェクト名と概要
2025	音威子府村 北海道立総合研究機構 林業試験場 (株)nitay	衛星画像を利用した広葉樹資源可視化技術の実証試験（産業分野） 【概要】北海道には広葉樹資源が豊富に存在する一方、分布調査は不十分で、人手不足により従来調査の継続が困難である。本事業では、音威子府村を実証地に、衛星画像と AI を用いた広葉樹判定システムの検証とビューアー開発を行った。

イ. 産学連携人材の育成

a. 産学連携体制・情報共有の強化

地域課題解決のためのプロジェクト等の立ち上げ・取組の促進等について、情報共有や意見交換を実施する会議等を開催した。

(1) グロースチーム会議（年2回開催）

事務局コーディネーターや産学融合コーディネーターが参加して、プロジェクト等の創出・推進のための情報共有や意見交換を行う会議体。各大学の取組や課題の共有、新規事業に関する意見交換などを行った。

(2) 事務局会議 ※随時実施

事務的な連絡事項、予算執行、手続きなどの報告事項及び業務上の進捗や共有などを行い、チームとして全体的な情報共有・意思決定を図った。

(3) サブワーキンググループ（SWG）での議論 ※随時実施

担当コーディネーター等が中心となり、各課題の解決に向けた検討内容や実施進捗を関係者間で議論・共有し、プロジェクト化の検討、現地調査などの伴走支援を行った。

b. 産学連携人材のコーディネート力の強化

道内の各機関の連携を高め、大学シーズ等を活用した課題解決に結び付けることを目的として、道内各大学の産学融合コーディネーター等のプロジェクト組成力を強化するために以下の事業を実施した。

(1) チャレンジフィールド北海道シンポジウムの開催

チャレンジフィールド北海道の活動周知と、産学融合コーディネーター間の交流促進を目的にシンポジウムを開催した。基調講演や取組紹介に加え、各機関によるポスター展示・発表を実施し、一般参加者にも開かれた場として情報発信と意見交換を行った。

行 事 名	チャレンジフィールド北海道シンポジウム
開 催 日 時	2026 年 2 月 27 日 14:30～17:30
場 所	京王プラザホテル札幌
内 容	広がる地域連携の力「北海道で実現する共創とイノベーション」をテーマに、以下のシンポジウムを開催した。 【基調講演】 「大学を起点とする地方創生とイノベーション」 三重大学 大学院地域イノベーション学研究科 教授 西村 訓弘 氏 【情報提供】 「国の大学関連施策の紹介」 経済産業省 イノベーション・環境局 大学連携推進室 【取組紹介】 「地域課題解決プロジェクト及び大学技術シーズの社会実装に向けた4つの実践事例」 ①(株)リープス 代表取締役 鈴木 善人 氏 ②北見工業大学 社会連携推進センター 准教授 三枝 昌弘 氏 ③室蘭工業大学 化学生物工学ユニット 准教授 馬渡 康輝 氏 ④北海道科学大学 寒地先端材料研究所 教授 齋藤 繁 氏 【報告】 「CFH 自走化と今後の展望」 ノーステック財団 常務理事 工藤 昌史 【ポスターセッション・交流会】 「産学官の取り組みを紹介」(17 機関から 32 枚)
主 催	ノーステック財団（チャレンジフィールド北海道）
後 援	北海道
参 加 者	89 名（現地参加）

c. 産学連携人材育成研修の実施

北海道で不足する産学官連携コーディネーター人材の育成とネットワーク構築を目的に、スキル向上と交流機会を提供する研修会を開催した。テーマ別に全3回実施し、人材発掘と能力強化を図った。

<産学連携コーディネーター育成に向けた研修会の実施>

行 事 名	産学連携コーディネーター育成研修会【第1回】
開 催 日 時	2025年11月21日 15:00～17:30
場 所	TKP 札幌駅カンファレンスセンター
内 容	「産学官連携に関する全体像、地域大学の取組み、大学の産学連携機能強化の今、産学連携コーディネーターというキャリアパス」を題材にて、以下の研修会を開催した。 【テーマ1】 「深化する産学官連携-情と利のバランスが大事-」 立命館大学 副学長 野口 義文 氏 【テーマ2】 「永続的な産学官連携構築に向けた大切なこと」 北見工業大学・社会共創推進機構社会連携推進センター 教授 内島 典子 氏
共 催	ノーステック財団(チャレンジフィールド北海道)、北大 R&BP 推進協議会、特定非営利活動法人産学連携学会
参 加 者	84名(うちオンライン 60名)

行 事 名	産学連携コーディネーター育成研修会【第2回】
開 催 日 時	2025年12月10日 15:00～17:30
場 所	TKP 札幌駅カンファレンスセンター
内 容	「研究を社会へ知財の力、知財が導く社会実装、産学官をつなぐ知財の鍵 ～次世代コーディネーターに求められる知的財産リテラシーと実践力～」を題材に、以下の研修会を開催した。 【テーマ1】 「ディープテックの医療系アカデミアシーズと知的財産権」 札幌医科大学スタートアップ・研究支援講座 特任教授 石埜 正穂 氏 【テーマ2】 「研究成果の社会実装における知的マネジメントの勘所 ～ビジネスを護るための地財戦略の実例から学ぶ～」 ライラックファーマ(株) 代表取締役 須佐 太樹 氏
共 催	ノーステック財団(チャレンジフィールド北海道)、北大 R&BP 推進協議会、特定非営利活動法人産学連携学会
参 加 者	54名(うちオンライン 32名)

行 事 名	北海道コーディネータ・ネットワーク・フォーラム 兼 産学連携コーディネーター育成研修会【第3回】
開 催 日 時	2026年1月27日 14:00～16:40
場 所	北海道庁 赤れんが庁舎
内 容	「全国の産学官連携の取組や、道内の『産』『学』『官』それぞれの立場で取り組む事例を参考に、今後の北海道らしい産学官連携を考える」を題材に、以下のフォーラムを開催した。 【基調講演】 「高等教育機関の視点から見る産学官連携 ～全国の事例を参考に、北海道らしい産学官連携を考える～」 文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課 課長補佐 對崎 真楠 氏 【事例紹介】 「十勝地域での事例紹介～大学と自治体との連携を中心に～」 帯広畜産大学産学連携センター 副センター長/准教授 東 陽介 氏

	「伊達市の事例紹介」 伊達市役所 経済環境部長兼企画財政部 参与 岡村 崇央 氏 「見えにくい価値を可視化する科学技術と社会の共創の場の創出」 (株)サイバコ 代表取締役 CEO 岩瀬 峰代 氏 【トークセッション】 スピーカー: 帯広畜産大学産学連携センター 副センター長/准教授 東 陽介 氏 伊達市役所 経済環境部長兼企画財政部参与(SIP 事業担当) 岡村 崇央 氏 (株)サイバコ 代表取締役 CEO 岩瀬 峰代 氏 アドバイザー: 文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課 課長補佐 對崎 真楠 氏 モデレーター: ノーステック財団 チーフコーディネータ 扇谷 悟
共 催	北海道、ノーステック財団(チャレンジフィールド北海道)、北大 R&BP 推進協議会、特定非営利活動法人産学連携学会
参 加 者	140 名 (うちオンライン 70 名)

(2) 北大リサーチ&ビジネスパーク推進支援事業（北大 R&BP 推進協議会委託）

協議会のネットワーク機能を活かし、道内の自治体などが抱える地域課題の解決に向けた支援、イノベーション創出につながる「交流の場」づくり、産学官連携に不可欠な人材育成の強化に向けた研修などを実施した。

ア. 協議会の運営

協議会・幹事会の開催、協議案件の調整、視察対応等の協議会事務局業務を遂行した。

< 協議会・幹事会の開催 >

	開催日	協議事項等
第 1 回 幹事会	2025 年 5 月 23 日	(1)北大 R&BP 推進協議会 2024 年度事業報告及び収支決算 (案) (2)北大 R&BP 推進協議会 2025 年度事業計画及び収支予算
第 1 回 協議会	2025 年 7 月 15 日	(1)北大 R&BP 推進協議会 2024 年度事業報告及び収支決算 (案) (2)北大 R&BP 推進協議会 2025 年度事業計画及び収支予算
第 2 回 幹事会	2026 年 3 月 17 日	(1)北大 R&BP 推進協議会 2025 年度事業実施状況及び収支見通し(案) (2)北大 R&BP 推進協議会 2026 年度事業計画及び収支予算 (案) (3)地域課題解決における 2025 年度の取組み及び 2026 年度の方向性について
第 2 回 協議会	2026 年 3 月 27 日	(1)北大 R&BP 推進協議会 2025 年度事業実施状況及び収支見通し(案) (2)北大 R&BP 推進協議会 2026 年度事業計画及び収支予算 (案) (3)地域課題解決における 2025 年度の取組み及び 2026 年度の方向性について

イ. 全道展開に向けた地域課題解決を核とする産学官連携プロジェクトの発掘・支援

「チャレンジフィールド北海道」「北海道ユニバーシティアライアンス」などと連携し、道内各地域の自治体などが抱える地域課題の解決に向けて、構成機関等が有する技術やノウハウを提供するなどの支援を実施した。

【主な取組】

- 地域課題と技術・シーズのマッチングに向けた調整の実施（市町村に向けた技術説明会の開催を含む）
- 地域課題の解決に向けた方策を検討・協議する「案件検討会議」の開催
- 地域課題の解決に向けた意見交換を実施する「地域交流会」の開催

＜案件検討会議の開催状況＞

	開催日	開催趣旨及び議事内容
第 1 回	2025 年 4 月 23 日	開催趣旨：2024 年度の取組経過と 2025 年度の取組方向の共有 議事内容 (1)2024 年度 案件検討会議の取組みについて (2)2025 年度 案件検討会議の取組みの方向について
第 2 回	2025 年 8 月 28 日	開催趣旨：2024 年度取組結果と 2025 年度新規案件の状況の共有及び地域課題解決に向けた協議会からの支援内容の提案 議事内容 (1)「2024 年度」取組み案件の今後の対応について (2)「2025 年度」新規案件について (3)地域課題解決に向けた協議会からの支援について
第 3 回	2025 年 12 月 25 日	開催趣旨：2025 年度の取組み状況の共有 議事内容 ・「2025 年度」の取組案件について
第 4 回	2026 年 2 月 26 日	開催趣旨：2025 年度の取組み状況の共有と 2026 年度の取組の方向の決定 議事内容 (1)2025 年度案件検討会議の取組みについて (2)地域課題解決に向けた取組みの方向「2026 年度」(案)について

＜地域交流会の開催状況＞

開催日時	2025 年 11 月 10 日 14:00～17:00
場 所	森町役場 本棟 2 階会議室
内 容	【地域課題】「所有者の照会に時間と手間がかかり空き家の把握が困難」 【プログラム】 (1) 北大 R&BP 推進協議会について (2) 技術シーズの紹介 ・住民基本台帳データを用いた「空き家特定ツール」について 北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所 主査 五十石 俊祐 氏 (3) 技術の使用に必要な情報について 北海道立総合研究機構 北方建築総合研究所 研究職員 小野塚 仁海 氏 (4) 意見交換

ウ．イノベーション創出を活性化するための「交流の場」の強化

HSFC などと連携し、道内大学等が有するシーズの発表やスタートアップ企業の取組みを紹介する場を設けるなど、産学官連携に係る関係機関との交流の場を開催し、イノベーション創出に向けたマッチングを促進した。

また、シーズとニーズのつなぎ役となるコーディネーターなど産学官連携を推進する人材が協働し、効果的な取組が進められるよう、人材育成の強化に向けた研修などを実施した。

【主な取組】

- a 大学発スタートアップ企業等が PR するイベントの開催
- b HSFC との連携による各種イベントの開催
- c 産学連携コーディネーター育成に向けた研修会の実施
- d 新産業創出に向けたセミナー等の開催

＜大学発スタートアップ企業等が PR するイベントの開催＞

行 事 名	「第 10 回 NoMaps Dream Pitch 2025」
開催日時	2025 年 9 月 10 日 13:00 ～ 18:20

場 所	ACU-A (アキュー)
内 容	研究・技術シーズや斬新なアイデアを基に事業化を目指す起業家・研究者・スタートアップによるビジネスプランコンテスト「第10回 NoMaps Dream Pitch 2025」を開催した。 【プログラム】 (1) 主催者挨拶、審査員紹介 (2) 参加チームによるプレゼンテーション (9 チーム) <起業前枠> 3 件 ①GerminaX (ジェルミナエックス) [北海道北見市] (北見工業大学) 「特殊ポリマコーティングによる発芽時期管理ソリューション」 ②ハートキッズ・ライフリンク [北海道札幌市] 「こどもの救命の今日と未来を創るパーソナライズ AI「ユポ・サポ」」 ③SUMInium (スミニウム) [北海道札幌市] (北海道大学) 「災害レジリエンスと水素社会を支える白金フリー燃料電池触媒」 <起業後枠> 6 件 ①ジカンテクノ(株) [大阪府大阪市] 「農業残渣、食品残渣を工業用バイオ素材へ！」 ②(株)よびもり [北海道札幌市] 「漁師の SOS が 1 分で仲間と家族に届く yobimori」 ③(株)IDDK [東京都江東区] 「日本発、宇宙バイオ実験プラットフォームで未来を創る」 ④(株)SATSOIL [東京都新宿区] 「営農指導支援プラットフォーム SATSOIL」 ⑤札幌試薬(株) [北海道札幌市] 「サプライチェーンクライシス “国産 BSA がつなぐ再生医療の命綱”」 ⑥クールフュージョン(株) [東京都港区] 「固体内核反応を用いた新エネルギー戦略」 (3) 審査会 (4) 10 周年特別企画、審査発表、表彰 (5) 交流会
共 催	STARTUP HOKKAIDO 実行委員会、総務省北海道総合通信局、北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク (HSFC)、北大リサーチ&ビジネスパーク推進協議会
参 加 者	146 名

<HSFC との連携による各種イベントの開催>

行 事 名	HSFC DAY
開 催 日 時	2025 年 9 月 11 日 10:30~16:35
場 所	京王プラザホテル札幌 エミネンスホール
内 容	【プログラム】 ※内容については、「1. イノベーション創出に向けた人材・技術シーズの発掘と育成 (10) スタートアップ・エコシステム共創プログラム事業 (科学技術振興機構委託) エ. 研究成果発表会の開催」にて掲載
主 催	北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク (HSFC:エイチフォース)
共 催・協 力	【共催】 STARTUP HOKKAIDO 実行委員会 【協力】 北大リサーチ&ビジネスパーク推進協議会
参 加 者	280 名 (うち、オンライン参加者 138 名)

<産学連携コーディネーター育成に向けた研修会の実施>

※産学融合拠点創出事業「チャレンジフィールド北海道」と共催のため、内容等は前項目 (1) にて掲載。

エ. 構成機関の連携や拠点形成を促進する情報共有と情報発信の強化

関係機関による対面での意見交換の場を充実し相互に協力していくほか、北大 R&BP の取組の積極的な発信に努めた。

【主な取組】

- a 産学官連携に関する重要政策等の情報共有・相互協力
- b R&BP 懇談会の開催など Face to Face で交流する機会の充実
- c 道内外の展示会への出展や協議会の取組みに係る情報発信（ホームページやメールマガジン等での情報発信ほか）

【産学官連携に関する重要施策等の情報共有・相互協力】

【Face to face で交流する機会の充実（R&BP 懇談会の開催）】（再掲）

産学連携コーディネーター育成に向けた研修会の実施（「産学連携コーディネーター育成研修会（第1回・第2回）」終了後）において、R&BP 懇談会を実施した。

【道内外の展示会への出展や企業向け情報発信の強化】

内 容	【出展先】
	① Bio Japan 2025（横浜市（パシフィコ横浜）：2025 年 10 月 8 日～10 日） ② ビジネス EXPO（札幌市（アクセスサッポロ）：2025 年 11 月 6 日～7 日）

(3) 産学官連携推進事業（自主）

産学官連携によるイノベーションの創出を目指して構築された様々なプラットフォームとの連携強化を図るとともに、ネットワーク形成に資する活動に取り組んだ。

参画している主なプラットフォームは以下のとおり。

- ・北海道プライムバイオコミュニティ
- ・北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク（HSFC：エイチフォース）
- ・フードロス削減コンソーシアム ほか

(4) コラボほっかいどう運営事業（自主）

北海道産学官協働センター（コラボほっかいどう）の共同研究施設の貸与を行い、産学連携による共同研究が円滑に推進されるよう施設の適正な管理運営と入居者に対する各種サポートを行った。

6. 法人の運営体制の充実を図るための取組

2024 年の公益法人制度改正を踏まえ、自主的かつ自律的なガバナンスの充実に向け、以下の取組を行った。

(1) 内部規程の整備

法令遵守の実効性の向上と役職員の行動規範の明確化を目的に、コンプライアンス関連規程の体系的な見直し・改定を実施した。

(2) 理事会・評議員会・監事の体制

理事会及び評議員会は、学術・研究機関、産業界、金融、経済団体などの外部有識者で構成されており、多様な分野の知見が組織運営に反映される体制を確保している。監事 2

名はいずれも外部の専門家（弁護士、企業経営者）を選任し、独立した立場からの監査を実施した。また、法令上の設置義務がない会計監査人を自主的に設置し、外部監査法人による会計監査を受けることで、財務の透明性と信頼性の向上を図っている。

以 上